

令 和 5 年 度

授 業 概 要

理 学 療 法 学 科

学校法人 山口コア学園
山口 コ・メディカル学院

Yamaguchi Allied Health College

令和5年度

- ◇ 学校行事日程
- ◇ 教育課程科目表
- ◇ 実務経験のある教員等による
授業科目一覧

令和5年度 学校行事日程

	日	月	火	水	木	金	土	
4月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	6 入学式
	9	10	11	12	13	14	15	7 新入生オリエンテーション
	16	17	18	19	20	21	22	10 前期授業開始
	23	24	25	26	27	28	29	13、20 内科健診
	30							
5月							2	自治会総会・春レク
			1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13	8 理学 臨床実習Ⅱ(～6/24)
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
6月							1	
							2	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
7月							1	
							2	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	18 理学 臨床実習Ⅲ(～9/8)
	23	24	25	26	27	28	29	
8月							1	
							2	7/31～8/2 前期補講日
	6	7	8	9	10	11	12	3～10 前期定期試験
	13	14	15	16	17	18	19	14 夏季休業(～9/15)
	20	21	22	23	24	25	26	21～9/1 前期試験予備日
	27	28	29	30	31			26 臨床実習指導者会議
9月							1	
							2	
	3	4	5	6	7	8	9	8 前期成績報告
	10	11	12	13	14	15	16	11 理学 臨床実習Ⅳ(～9/15)
	17	18	19	20	21	22	23	19 後期オリエンテーション
	24	25	26	27	28	29	30	25 後期授業開始 30 学園祭

	日	月	火	水	木	金	土	
10月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	27 自治会総会・秋レク
	29	30	31					30 理学 臨床実習 I (~12/8)

	日	月	火	水	木	金	土	
11月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土	
12月					1	2		
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	22 終業
	17	18	19	20	21	22	23	18~22 理学 臨床基礎実習
	24	25	26	27	28	29	30	25 冬期休業(1/5)
	31							

	日	月	火	水	木	金	土	
1月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	9 授業再開
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土	
2月					1	2	3	1/31~2/2 後期補講日
	4	5	6	7	8	9	10	5~9 後期定期試験
	11	12	13	14	15	16	17	13~29 後期試験予備日
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29			

	日	月	火	水	木	金	土	
3月					1	2		
	3	4	5	6	7	8	9	1 後期成績報告
	10	11	12	13	14	15	16	9 卒業式
	17	18	19	20	21	22	23	春季休業(~4/3)
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

理学療法学科

1. 基礎科目

科 目	単位	開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数
英語 I (文献 I)	1		15		15							科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	3単位必修
英語 II (英会話)	1		15		15								
英語 III (医学英語)	1		15			15							
体育理論	1		30		30								2単位必修
体育実技	1		30		30								
哲学 I	1		15		15								
哲学 II	1		15			15							6単位以上
心理学 I	1		15		15								
心理学 II		1	15			15							
法医学	1		15		15								
教育学 I	1		15		15								
教育学 II		1	15			15							
社会福祉学	2		30		30							9単位必修	14単位
統計学	1		15		15								
物理學	2		30		30								
生物学	2		30		30								
情報科学 I	1		15			15							
情報科学 II	1		15			15							
	19	2	345	150	165	30	0	0	0	0	0		
				315		30		0		0			

2. 専門基礎科目

科 目	単位	開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数
解剖生理学 I	1		30		30							人体の構造と機能 及び心身の発達	13単位必修
解剖生理学 II	1		30			30							
解剖生理学 III	1		30		30								
解剖生理学 IV	1		30			30							
解剖学 I 実習	1		30		30								
解剖学 II 実習	1		30			30							
運動生理学	1		30				30						
生理工学実習	1		45			45							
運動学 I	1		30		30								
運動学 II	1		30			30							
運動学実習	1		30				30						
臨床心理学	1		30		30								
人間発達学	1		30			30							12単位
病理学	1		30		30								
内科学 I	1		30			30							
内科学 II	1		30				30					疾病と障害の成り立ち 及び回復課程の促進	14単位必修
児童保健学	1		30			30							
神経内科学	1		30			30							
精神医学	1		30			30							
整形外科学 I	1		30			30							
整形外科学 II	1		30				30						
医学概論	1		15		15								
リハビリテーション医学	1		15			15							
救急医学	1		15				15						
脳神経外科学	1		15				15						
薬理学	1		15				15						
栄養学	1		15				15						
リハビリテーション概論	1		30		30							3単位必修	4単位
地域リハビリテーション学	1		30			30							
リハビリテーション工学	1		30				30						
作業療法概論		1	15					15				3単位以上	4単位
言語聴覚療法概論		1	15					15					
看護学概論(在宅看護学)		1	15					15					
ボランティア論		1	15		15								
	31	3	885	195	165	240	150	135	0	0	0		
				360		390		135		0			

3. 専門科目

科 目	単位 必修 選択	開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 16単位必修	指定規則 基礎理学療法学	教育内容	単位数
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
理 学 療 法 概 論 I	1	30	30											
理 学 療 法 概 論 II	1	30		30										
理 学 療 法 概 論 III	1	30			30									
基 礎 理 学 療 法 学 I	1	30		30										
基 礎 理 学 療 法 学 II	1	30			30									
臨 床 運 動 学	1	30				30								
理 学 療 法 研 究 法	1	30								30				
リハビリテーションセミナー	1	45	45											
理 学 療 法 セ ミ ナ ー I	1	30	30											
理 学 療 法 セ ミ ナ ー II	1	30			30									
理 学 療 法 セ ミ ナ ー III	1	30				30								
理 学 療 法 セ ミ ナ ー IV	1	30					30							
理 学 療 法 セ ミ ナ ー V	1	30						30						
理 学 療 法 セ ミ ナ ー VI	3	90								90				
理 学 療 法 管 理 学	2	30								30	2単位必修	理学療法管理学	2単位	
理 学 療 法 評 価 学 I	1	30		30							6単位必修	理学療法評価学		
理 学 療 法 評 価 学 II	1	30			30									
理 学 療 法 評 価 学 III	1	30				30								
理 学 療 法 評 価 学 演 習 I	1	30					30							
理 学 療 法 評 価 学 演 習 II	1	30						30						
ケ ア マ ネ ジ メ ン ト 論	1	30						30				6単位		
理 学 療 法 治 療 学 I	2	60			60						22単位必修	理学療法治療学		
理 学 療 法 治 療 学 II	2	60			60									
理 学 療 法 治 療 学 III	2	60				60								
理 学 療 法 治 療 学 IV	2	60					60							
理 学 療 法 治 療 学 V	2	60		60										
理 学 療 法 治 療 演 習 I	2	60				60								
理 学 療 法 治 療 演 習 II	2	60					60							
理 学 療 法 治 療 演 習 III	2	60						60						
義 肢 装 具 学 総 論	1	30			30									
義 肢 装 具 学 各 論	1	30				30								
理 学 療 法 特 論 I	2	30					30							
理 学 療 法 特 論 II	2	30						30				20単位		
生 活 環 境 論	1	30			30						4単位必修	地域理学療法学		
地 域 理 学 療 法 学	1	30				30								
地 域 理 学 療 法 学 演 習	1	30				30								3単位
地域理学療法学実習(福祉施設)	1	45								45				
臨 床 基 礎 実 習	1	40			40						21単位必修	臨床実習		
臨 床 実 習 I	5	200							200					
臨 床 実 習 II	7	280								280				
臨 床 実 習 III	7	280								280				
臨 床 実 習 IV (訪 問・通 所 リ ハ)	1	40								40				20 単位
	71	2280	105	150	250	240	300	380	705	150				
			255		490		680		855					

開 講 科 目 数	単位		開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		教育内容	単位数
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
開 講 科 目 数	121	5	3510	450	480	520	390	435	380	705	150		
				930		910		815		855			

理学療法学科

1. 基礎科目

科 目	単位		開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則	
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数
英語 I (文 献 I)	1		30	30								4単位必修	科学的思考の基盤 人間と生活	
英語 II (文 献 II)	1				30		30							
英語 III (英 会 話)	1			30	30									
英語 IV (医 学 英 語)	1					30								
体 育 理 論	1		30		30							2単位必修		
体 育 実 技	1		30	30										
哲 学 I	1			15	15							7単位以上		
哲 学 II	1			15		15								
心 理 学 I	1			15	15									
心 理 学 II		1		1	15		15							
法 学 I	1				15		15							
法 学 II		1		1	15		15							
教 育 学 I	1				15		15							
教 育 学 II		1		1	15		15					3単位以上		
文 学			1	15	15									
社 会 福 祉 学	2			30		30								
社 会 学				1	15			15						
文 化 人 類 学			1	15				15						
統 計 学 I	1				15		15					9単位必修		
統 計 学 II	1				15		15							
物 理 学	2			30	30									
生 物 学	2			30	30									
情 報 科 学 I	1			15		15								
情 報 科 学 II	2			30			30					14		
	22	6	510	195	225	75	15	0	0	0	0			
				420		90		0		0				

2. 専門基礎科目

科 目	単位		開 講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則		
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数	
解剖学 I	1		30	30								15単位必修	人体の構造と機能 及び心身の発達		
解剖学 II	1				30		30								
解剖学 I 実習	1			30	30										
解剖学 II 実習	1			30		30									
解剖学 III	1			30				30							
生理学 I	1			30	30										
生理学 II	1			30		30									
生理学 III	1			30		30									
運動生理学	1			30				30							
生理学 実習	1			45			45								
運動学 I	1		30	30									12単位必修	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	
運動学 II	1			30		30									
運動学 実習	1			30			30								
臨床心理学	1			30	30										
人間発達学	1			30				30							
医学概論	1		30	30								12単位必修	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進		
病理学	1				30		30								
内科学 I	1			30				30							
内科学 II	1			30				30							
小児保健学	1			30			30								
神経内科学	1			30			30								
精神医学	1			30			30								
整形外科学 I	1			30			30								
整形外科学 II	1			30				30							
救急医学	1			15						15					
脳神経外科学	1		15	15						15		3単位必修	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		
薬理学	1				15				15						
リハビリテーション概論	1			30	30										
作業療法概論	1			15				15							
言語聴覚療法概論	1			15				15							
看護学概論		1	15							15		3単位以上			
公衆衛生学		1	15							15					
福祉工学		1	15							15					
ボランティア論		1	15		15										
	30	4	900	210	195	225	150	75	45	0	0				
				405		375		120		0					

3. 専門科目

科 目	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件	指定規則	
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		教育内容	単位数
理学療法概論 I	1		30	30								18単位必修	基礎理学療法学	6
理学療法概論 II	1		30		30									
理学療法概論 III	1		30			30								
理学療法概論演習	1		45			45								
基礎理学療法学 I	1		30		30									
基礎理学療法学 II	1		30			30								
基礎理学療法学 III	1		30				30							
臨床運動学	1		30					30						
理学療法研究法	1		30							30				
リハビリテーションセミナー	1		30	30										
理学療法セミナー I	1		30	30										
理学療法セミナー II	1		30			30								
理学療法セミナー III	1		30				30							
理学療法セミナー IV	1		30					30						
理学療法セミナー V	1		45							45				
理学療法セミナー VI	2		90								90			
理学療法管理学	1		30								30			
理学療法評価法概論	1		30	30								6単位必修	理学療法評価学	5
理学療法検査測定法 I	1		30	30										
理学療法検査測定法 II	1		30			30								
理学療法検査測定法 III	1		30			30								
精神機能評価学	1		30			30								
ケアマネジメント概論	1		30					30						
運動療法学	1		30		30							21単位必修	理学療法治療学	20
運動器系障害理学療法学 I	1		30			30								
運動器系障害理学療法学 II	1		30				30							
運動器系障害理学療法学 III	1		30					30						
神経系障害理学療法学 I	1		30			30								
神経系障害理学療法学 II	1		30				30							
神経系障害理学療法学演習	1		45			45								
内部障害理学療法学	1		30			30								
内部障害理学療法学演習	1		45				45							
発達障害理学療法学	1		30			30								
発達障害理学療法学演習	1		45				45							
物理療法学	1		30			30								
物理療法学演習	1		30				30							
義肢装具学総論	2		30				30							
義肢装具学各論	1		30					30						
義肢装具学演習	1		15							15				
日常生活活動学	1		30	30										
日常生活活動学演習	1		30					30						
理学療法特論	2		45							45				
地域リハビリテーション学	2		30				30					5単位必修	地域理学療法学	4
生活環境論	1		30				30							
地域理学療法学	1		30					30						
地域理学療法学実習	1		30						30					
臨床実習 I	5		240							240		19単位必修	臨床実習	18
臨床実習 II	7		320								320			
臨床実習 III	7		320								320			
	69	0	2395	90	150	255	345	300	375	730	150			
				240		600		675		880				

開講科目数	単位		開講時間数	1年次		2年次		3年次		4年次	
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
121	10	3805	495	570	555	510	375	420	730	150	
			1065		1065		795		880		

卒業要件単位数

科 目	卒業要件単位数				
	科目数	配当単位	必修	選択	
基礎	科学的思考の基盤、人間と生活	24	28	22	3
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	15	15	15	0
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	12	12	0
	保健医療福祉とりハビリテーションの理念	7	7	3	3
専門	基礎理学療法学	17	18	18	0
	理学療法評価学	6	6	6	0
	理学療法治療学	19	21	21	0
	地域理学療法学	4	5	5	0
	臨床実習	3	19	19	0
		107	131	121	6
					127

実務経験のある教員等による授業科目一覧 理学療法学科

科目名	単位数	時間数			
		1年次	2年次	3年次	4年次
解剖学 I 実習	1	30			
解剖学 II 実習	1	30			
生理学 実習	1		45		
運動学 I	1	30			
運動学 II	1	30			
運動学 実習	1		30		
リハビリテーション概論	1	30			
地域リハビリテーション学	1		30		
作業療法概論	1			15	
言語聴覚療法概論	1			15	
看護学概論	1			15	
理学療法概論 I	1	30			
理学療法概論 II	1	30			
理学療法概論 III	1		30		
基礎理学療法学 II	1		30		
基礎理学療法学 III	1		30		
臨床運動学	1			30	
理学療法研究法	1				30
リハビリテーションセミナー	1	45			
理学療法セミナー I	1	30			
理学療法セミナー II	1		30		
理学療法セミナー III	1			30	
理学療法セミナー IV	1			30	
理学療法セミナー V	1				30
理学療法セミナー VI	3				90
理学療法管理学	2				30
理学療法評価学 I	1	30			
理学療法評価学 II	1		30		
理学療法評価学 III	1		30		
理学療法検査学演習 I	1			30	
理学療法検査学演習 II	1			30	
ケアマネジメント概論	1			30	
理学療法治療学 I	2		60		
理学療法治療学 II	2		60		
理学療法治療学 III	2		60		
理学療法治療学 IV	2			60	
理学療法治療学 V	2	60			
理学療法治療学演習 I	2		60		
理学療法治療学演習 II	2			60	
理学療法治療学演習 I	2			60	
義肢装具学総論	1		30		
義肢装具学各論	1			30	
理学療法特論 I	2			30	
理学療法特論 I	2				30
生活環境論	1		30		
地域理学療法学	1			30	
地域理学療法学実習	1			30	
地域理学療法学実習(福祉施設)	1				45
臨床基礎実習	1		40		
臨床実習 I	5			200	
臨床実習 II	7				280
臨床実習 II	7				280
臨床実習 IV(訪問・通所リハ)	1				40
合計	81	345	625	725	855
単位				時間	2550

基 硍 科 目

理学療法学科

1 年 次

基 础 科 目

- | | |
|---------------|----------|
| ◇ 英語 I (文献 I) | ◇ 法学 |
| ◇ 英語III (英会話) | ◇ 教育学 I |
| ◇ 体育理論 | ◆ 教育学 II |
| ◇ 体育実技 | ◇ 社会福祉学 |
| ◇ 哲学 I | ◇ 統計学 |
| ◇ 哲学 II | ◇ 物理学 |
| ◇ 心理学 I | ◇ 生物学 |
| ◆ 心理学 II | ◇ 情報科学 I |

(◆選択科目)

科目区分：基礎	科目名：英語Ⅰ（文献Ⅰ）	担当：池園 宏
単位：1単位（15時間）	開講期：1年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

日本と英国の諸相を対比的に解説した英文テキストを読み、英語の読解力を身につけるとともに、異文化に対する理解と関心を深める。

【達成目標】

- ・まとめた分量の英文を読み、英語の読解力を身につける。
- ・英文読解に必要な英文法力を身につける。
- ・テキストの様々な課題に取り組むことで、英文の内容を多角的に理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・毎回必ず予習を行って授業に臨むこと。
- ・毎回必ず英和辞書を持参すること。

【授業計画】

1. イントロダクション・・・演習
2. Business Hours ・・・演習
3. Public Holidays ・・・演習
4. Your Transport, My Transport ・・・演習
5. Technology ・・・演習
6. Weddings ・・・演習
7. Dialects ・・・演習
8. 試験

【テキスト】

プリント配布

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業内活動（30%）
2. 期末試験（70%）

科目区分:基礎	科目名:英語III(英会話)	担当:尊田 望 (Sonda, Nozomu)
単位:1単位(15時間)	開講期:1年(前期)	履修形態:必修

【授業の概要】 初級上から中級の下程度の学習者(英検準2級前後、TOEIC400点前後)を対象とし、中級の下から中程度のレベルを目標とする(英検2級程度、TOEIC 500点程度)。中学校程度の英語を復習しながら、様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。

【達成目標】 基本的な自己紹介ができる。日常的なトピックについて簡単な会話ができる。社会的な事柄や問題について自分の意見を簡単な英語で述べることができる。

【履修条件・注意事項】 欠席の場合は教官に相談してください。辞書を持参すること。

【授業の主な要素】

- * Warm-up
- * Conversation
- * Vocabulary exercise
- * Grammar and drill exercise
- * Graded Readers
- * Communication game/exercise on a given topic
- * Summary

【授業計画】

授業回	項目	内容	宿題
1	Getting acquainted & Family 自己紹介・家族	会話演習・語彙ゲーム・Mind Game or 家系図	語彙リスト・Graded Raeder 感想・英文エッセイ (Travel)
2	Travel Abroad 海外旅行	会話演習・語彙ゲーム・国名クロスワード・国旗	語彙リスト・Graded Raeder 感想・英文エッセイ (Food)
3	Food & Eating 食べ物と食べること	会話演習・語彙ゲーム・Restaurant game & placing orders	語彙リスト・Graded Raeder 感想・英文エッセイ (Movies, TV & Music)
4	Movies & Music 映画と音楽	会話演習・語彙ゲーム・movie viewing & listening exercise	語彙リスト・Graded Raeder 感想・英文エッセイ (Numbers)
5	Love & marriage 恋愛と結婚	会話演習・語彙ゲーム・Romance score game	語彙リスト・Graded Raeder 感想・英文エッセイ (Love & Romance)
6	Culture & places in Japan 日本の文化と地理	会話演習・語彙ゲーム・Japanese story game	語彙リスト・Graded Raeder 感想・英文エッセイ (Japan)
7	Global Community 國際社会	会話演習・語彙ゲーム・"Where is Matt san?" & global community building	語彙リスト・Graded Raeder 感想・英文エッセイ (World)・試験の準備
8	Final Exam 期末試験	英語会話	

【テキスト】

Daily Conversations & Deep Topics 4th edition (Nozomu Sonda & John Spiri)

【成績評価】

● 授業内演習 = 20% ● 宿題 = 20% ● プレゼンテーション = 20% ● 期末試験 = 40%

科目区分:基礎	科目名:体育理論	担当:杉浦 崇夫
単位:1単位(30時間)	開講期:1年(後期)	履修形態:必修

【授業の概要】

本講義では、健康の保持増進のための身体運動の意義を理解するとともに、健康の保持増進のために運動を実践する際に必要な基本的考え方ならびに具体的方法について理解修得することを目的とする。

【達成目標】

1. 身体運動時のからだの変化を説明できる。
2. 健康の保持増進を目的とした時の身体運動の効果について説明できる。
3. 脈拍数による運動強度管理ができる。
4. 筋力トレーニングの必要性を理解し実践することができる。

【履修条件・注意事項】

欠席が4回以上の者には単位を与えない。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 筋運動のエネルギー: ATP-CP系、乳酸系、有酸素系エネルギー発生機構
3. 運動時のエネルギー代謝
4. 呼吸器系と運動
5. 循環器系と運動
6. 骨格筋の基本的構造
7. 筋線維タイプの生理的・代謝的特性と運動
8. 筋の収縮様式と筋力、筋線維組成と力-速度関係
9. 肥満と運動
10. 骨粗鬆症と運動
11. 動脈硬化と運動
12. エネルギー消費の算出法
13. 運動処方(有酸素運動)
14. ステップテストによる運動強度の決定
15. 運動処方(無酸素運動)
16. まとめ

【テキスト】

現代栄養科学シリーズ18 「運動生理学」 池上 晴夫 著 朝倉書店

【参考図書】

【成績評価】

ステップ実習レポートと期末試験で評価する。

科目区分:基礎	科目名:体育実技	担当: 兼行 剛士 NAP指導員
単位:1単位(30時間)	開講期:1年(前期)	履修形態:必修

【授業の概要】

新体力テストの中から室内で実施できる6種目を測定することで個々の運動能力を知り、その後の活動の中で改善と向上を図る。

球技(ソフトタッチバレーボール)を協力しながら行い、「するスポーツ」の楽しさを体感しながら体力の向上と相互理解を深める。

「支えるスポーツ」の視点から、リハビリテーションとの関りが強く、またアスレティックトレーナーの分野でもあるストレッチ・各種トレーニング・テーピング等の基本的な実践方法を修得する。

さらに、職業スキルの1つとしてリハビリの有効な手段である水泳でいくつかの泳法を修得する。

【達成目標】

- ・個々の運動能力の現状を知り、実践の中でその改善と向上を図る。
- ・他者と協力しながら、個々の運動能力に応じて「するスポーツ」の楽しさを体感し、体力の向上を図り相互理解を深める。
- ・「支えるスポーツ」の視点からストレッチ・各種トレーニング・テーピング等の実践方法を修得する。
- ・職業スキルの1つとして水泳でいくつかの泳法を修得する。

【履修条件・注意事項】

- ・この体育実技では、校内実技と水泳(校外)の両方を履修しなければならない。
- ・身体的諸事情により、一方の種目に偏らなければならない場合には、事前に申告し、調整する。

【授業計画】

○校内実技 : 3階講堂

1. オリエンテーション	新体力テスト「反復横跳び、長座体前屈、立ち幅跳び、上体起こし握力、20m シャトルラン」
2. コーディネーショントレーニング	球技(ソフトタッチバレーボール)
3. チューブトレーニング	球技(ソフトタッチバレーボール)
4. コアトレーニング	球技(ソフトタッチバレーボール)
5. ストレッチポールによるストレッチ	球技(ソフトタッチバレーボール)
6. スポーツマッサージ	球技(ソフトタッチバレーボール)
7. テーピング	球技(ソフトタッチバレーボール)
8. テーピング	球技(ソフトタッチバレーボール)

○水泳 : スホーツクラブNAP 火曜日 9:00~10:30 (集合 8:45)

1. 泳力調査・基礎練習
2. 泳法・泳力練習 (クロール)
3. 泳法・泳力練習 (背泳ぎ)
4. 泳法・泳力練習 (平泳ぎ)
5. 泳法・泳力練習 (バタフライ)
6. まとめ・泳力調査
7. 水中運動体験 (アクアピクス)

【テキスト】

【参考図書】

【成績評価】

授業態度(意欲)、出席状況、レポートなどで総合的に判断する。

科目区分:基礎	科目名:哲学I	担当: 村瀬ひろみ
単位:1単位(15時間)	開講期:1年(前期)	履修形態:必修

【授業の概要】

近年、科学技術の発展とともに、医療をめぐる技術にも大きな変化がある。また、疾病の構造が変化し、従来の「おまかせ医療」では通用しなくなった。そのような激動の医療現場では、さまざまな利害が衝突し、また、価値を伴う判断を迫られることになる。そのような場合に、判断の根拠となるものが「倫理」である。本講では、生命や医療にまつわる生命倫理学の立場から、さまざまな医療環境における問題を考える力を養う。

【達成目標】

- ・医療の歴史が大枠で理解できる
- ・人権、患者の権利について、歴史的な視点から理解できる
- ・生命倫理学の誕生について、理解できる

【履修条件・注意事項】

講義形式ではあるが、積極的な参加を求めます。講義を受けるときの注意事項は第一回で詳述するので、理解して講義に臨むようにしてください。

【授業計画】

1. バイオエシックスのあらまし、オリエンテーション
(受講上の注意とルール、何を何のために学ぶか)
2. 疾病構造の変化とパターンリズム
3. 患者の権利の誕生
(人権と患者の権利)
4. 人体実験と生命倫理学
(第二次世界大戦と、医療)
5. 高度先端医療と生命倫理学
6. コ・メディカルと医療倫理
7. 総括
8. テスト

【テキスト】

プリントを配布します

【参考図書】

『医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順』 宮坂道夫(医学書院)

【成績評価】

定期試験

科目区分:基礎	科目名:哲学II	担当: 村瀬ひろみ
単位:1単位(15時間)	開講期:1年(後期)	履修形態:必修

【授業の概要】

哲学Ⅰに引き続き、医療をめぐる倫理的な問題について哲学、倫理学の視点から考える。Ⅰでは主に総論的な視点を学習したが、このⅡでは、実際に医療現場で起こっていることをひとつずつ検証しながら、話を進めていく。生、性、死に関する具体的な倫理学を通して、職業倫理についての基本的素養を養う。

【達成目標】

- ・生命誕生における生命倫理学的問題について、理解できる
- ・先端技術の推進派、否定派、様々な立場を理解できる
- ・死について、考えることができる

【履修条件・注意事項】

講義形式ではあるが、引き続き積極的な参加を求めます。

質問シートの活用をしてください。

【授業計画】

1. 生と性をめぐる生命倫理学…人工妊娠中絶
(日本の中絶をめぐる制度と法律、優生学)
2. 生と性をめぐる生命倫理学…人工妊娠中絶2
(キリスト教世界における中絶と、世界)
3. 生と性をめぐる生命倫理学…出生前診断
4. 生と性をめぐる生命倫理学…高度生殖医療
(高度生殖医療の種類と実際)
5. 生と性をめぐる生命倫理学…高度生殖医療2
(代理母、代理出産の現状と未来)
6. 障害学、障害者運動からみる生命倫理学
7. 終末期における生命倫理学
8. テスト

【テキスト】

プリントを配布します

【参考図書】

『医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順』 宮坂道夫(医学書院)

【成績評価】

定期試験

科目区分：基礎	科目名：心理学Ⅰ	担当：恒吉 徹三
単位：1単位(15時間)	開講期：1年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

人のこころを理解する基礎的な視点について学ぶことを目的とする。特に、個人差や社会への適応とかかわる領域を取り扱う。その際、身近な題材も講義の中に取り入れることで、心理学を身近なものとして理解し、臨床現場での対象者の理解に生かせるように学んでいく。

【達成目標】

- ・心理学の基礎的な概念について説明ができる。
- ・心理学の中でも特に個人差のかかわる領域に関する概念やその研究方法について説明ができる。
- ・臨床的な場や日常的なことに関連付づけて心理学的な概念を説明ができる。

【履修条件・注意事項】

授業内レポートを3回実施します。これは、授業で学んだ内容を、自分がどの程度説明できるかを確認するための振り返りレポートです。(平常点:30点=10点×3回)

【授業計画】

1. 心理学とは（心理学の特徴、歴史、データの収集方法）：レポート①
2. 心の発達①（アタッチメント理論を中心に）
3. 心の発達②（ライフサイクル論を中心に）：レポート②
4. 動機づけ（動機づけの種類とその意味づけ）
5. パーソナリティ（特性論と因子論およびいくつかのパーソナリティ理論）
6. 知能（古典的理論と現代的理論）：レポート③
7. ストレスとメンタルヘルス（基本モデルといいくつかの理論的立場からの説明）
8. 試験

【テキスト】

『はじめて出会う心理学(改訂版)』(長谷川・東條・大島他著 有斐閣アルマ)

【参考図書】

『アイデンティティの心理学』(鎌幹八郎 講談社現代新書)

『はじめて出会う心理学』(長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦 有斐閣アルマ)

* 関心に応じて読んで下さい

【成績評価】

1. 授業内レポート (30%)
2. 試験 (70%)

科目区分：基礎	科目名：心理学Ⅱ	担当： 小野 史典
単位：1単位(15時間)	開講期：1年(後期)	履修形態： 選択(P・O) / 必修(S)

【授業の概要】

人間の心の働きを科学的な視点から概観する。特に人間の知覚的および認知的側面に焦点を当て、我々の生活場面における心的メカニズムを論考する。

【達成目標】

心理学の基礎的な知識と共に、日常生活における様々な心的営みに対して科学的な観点から考察する能力を修得することが目的。

【履修条件・注意事項】

自分なりの講義ノートを作成し、それを試験に活用されたい。

【授業計画】

- 1.効果の確かさ(講義)
- 2.動機(講義)
- 3.知覚(講義)
- 4.認知(講義)
- 5.発達(講義)
- 6.学習(講義)
- 7.記憶(講義)
- 8.試験

【テキスト】

テキストは特に用いず、講義資料に基づいて授業を行う。

【参考図書】

講義中に紹介する。

【成績評価】

試験(50%)
出席(50%)

科目区分：基礎	科目名：法 学	担当：平中 貫一
単 位：1 単位（15時間）	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【目的・内容】

法学では、法とは何か、法と社会の関係、六法の仕組みなど、法学の基礎的な内容を学びます。やや抽象的で分かりにくい内容ですが、具体的な事例を取り上げて初学者に分かりやすくするつもりです。

- 1 法とは何か
- 2 公法と私法
- 3 実体法と手続法
- 4 権利と義務
- 5 民法の原則
- 6 法律行為
- 7 代理制度
- 8 時効

【テキスト】

『ポケット六法 令和5年版』

佐伯 仁志、大村 敦志、荒木 尚志／編集代表

有斐閣

『民事法入門』 野村 豊弘／編

有斐閣

【参考図書】

【授業方法】 講義	【評価方法】 授業態度 課題レポート
--------------	-----------------------

科目区分： 基礎	科目名：教育学Ⅰ	担当：佐々木 司
単 位：1 単位（15時間）	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

教育の原理的な面を、教育の意義、人間の発達と教育、学校教育の課題などから広範に理解することにより、教育学の基礎を身につける。

【達成目標】

- ・医療・福祉・保健分野における教育の意義を理解する。
- ・人間の発達と可能性に及ぼす教育の影響について理解する。
- ・学校教育の課題や制度的変容を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・毎回、ノートをしっかりと取り、その日のうちに復習をすること。

【授業計画】

1. 授業についての説明、アイスブレーキングの技法・・・講義、グループワーク
2. 新しい教育課題・・・講義
3. 人間の発達と教育・・・講義、グループワーク
4. 教育推進の基本的方向・・・講義
5. 学校という制度・・・講義
6. 社会教育のしくみと課題・・・講義
7. 進路指導と生徒指導・・・講義、グループワーク
8. 試験

【テキスト】

佐々木 司・熊井将太編著『やさしく学ぶ教育の原理』ミネルヴァ書房

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 提出課題（30%）
2. 試験（70%）

科目区分：基礎	科目名：教育学Ⅱ	担当：佐々木 司
単位：1単位（15時間）	開講期：1年（後期）	履修形態： 必修（S）/選択（P・O）

【授業の概要】

教育の方法や技能の基礎・基本を、医療現場で働く者にも求められる重要なスキルとして捉え、教育の方法や各種技能を身につける。

【達成目標】

- ・医療・福祉・保健分野に応用可能な教育方法の本質と技法を理解する。
- ・指導案の作成過程を通して、他者に学習を促す際の要点を理解する。
- ・模擬授業を行うことによって、授業者としての課題と改善点を知る。

【履修条件・注意事項】

- ・毎回、ノートをしっかりと取り、その日のうちに復習をすること。

【授業計画】

1. 授業についての説明、「教育の方法」を学ぶための心構えと具体的方法・・・講義
2. 教師の職務と責任・・・講義、グループワーク
3. 教育方法の基礎・・・講義
4. 授業の構成要素と発問の組織化・・・講義
5. 指導案の作成・・・講義、グループワーク
6. 「模擬授業」をやってみる・・・グループワーク
7. まとめと省察・・・グループワーク
8. 試験

【テキスト】

佐々木 司・熊井将太編著『やさしく学ぶ教育の原理』ミネルヴァ書房

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 提出課題（30%）
2. 試験（70%）

科目区分: 基礎	科目名:社会福祉学	担当:服部 恒弥
単 位: 2単位(30時間)	開講期:1年(後期)	履修形態:必修

【授業の概要】

「社会福祉の定義」「高齢者の生活と福祉」「障害者の自立と福祉」「社会福祉の法」、以上の項目を中心に、社会福祉士としての立場から講義する。

【達成目標】

医療従事者として必要な社会福祉の基礎知識について習得する。

【履修条件・注意事項】

積極的に授業に参加することを望む

【授業計画】

1. 社会福祉とは何か その1
2. 社会福祉とは何か その2
3. 社会福祉の法と行財政
4. 生活保護法について (原理)
5. 生活保護法について (原則・扶助)
6. 高齢者の生活と福祉 その1
7. 高齢者の生活と福祉 その2
8. 高齢者の生活と福祉 その3
9. 障害者の自立と福祉 その1
10. 障害者の自立と福祉 その2
11. 障害者の自立と福祉 その3
12. 障害者の自立と福祉 その4
13. 児童家庭福祉法 その1
14. 児童家庭福祉法 その2
15. 地域福祉の組織
16. 試験

【テキスト】

『新・社会福祉とは何か』

大久保秀子 著

中央法規

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

- ・ 期末試験(100%)

科目区分：基礎	科目名：統計学	担当：内野 英治
単位：1 単位(15時間)	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

看護・福祉・医療の分野においては、データを統計的に解析する場合が非常に多い。本科目では、講義と演習を交互に行い、実際の現場で統計学をすぐに活用できる力を身につけることを目的とする。本科目では、統計を学習するのに必要な基礎知識と統計学の入り口を学習する。

【達成目標】

統計の基礎用語の概念が説明できる。確率変数、確率密度関数について説明ができる。確率分布の意味がわかる。分布表を活用できる。点推定の計算ができる。区間推定の計算ができる。簡単な検定ができる。

【履修条件・注意事項】

特になし。

【授業計画】

1. 統計の話、統計の基礎用語（平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差）、演習
2. 確率の基礎（事象、確率変数、確率密度関数）、演習
3. 確率分布（正規分布、t分布、 χ^2 分布、分布表）、演習
4. 点推定、区間推定、演習
5. 検定（帰無仮説、対立仮説、有意水準、平均値の検定）、演習
6. 検定（平均値の差の検定）、演習
7. 検定（適合度の検定）、演習
8. 期末試験

【テキスト】

『統計データ解析』

小野瀬宏 内田老鶴園

『PT・OTのための統計学入門』

渡邊宗孝 他

三輪書店

【参考図書】

【成績評価】

試験（100%）

科目区分: 基礎	科目名: 物理学	担当: 國安 正志
単位: 2単位(30時間)	開講期: 1年(前期)	履修形態: 必修(P)/選択(O)

【授業の概要】

物理学(主に力学)の基本的な内容から医療現場における応用まで、初めて物理を学ぶ学生にも理解できるように講義する。

【達成目標】

- ・力学の基礎知識を習得し、具体的な計算手法などを理解する。
- ・力学の医療現場における応用例を学習する。
- ・物理学を学習することで、論理的な考え方を身に付ける。

【履修条件・注意事項】

- ・初めて物理学を学習する生徒にとっては、難解な授業になる可能性もあるため、事前の予習や授業後の復習などで各自理解を補うこと。自主性を持って学習に取り組むこと。

【授業計画】

1. 移動動作に必要な力の加減(1)
2. 移動動作に必要な力の加減(2)
3. 「力のつりあい」を応用する(1) : 牽引
4. 物の量を表すときに欠かせない「単位」の話
5. 体位変換に役立つトルクの知識(1)
6. 体位変換に役立つトルクの知識(2)
7. 安定・不安定(1)
8. 安定・不安定(2)
9. 撃力と骨折
10. 「摩擦」は天の邪氣？(1)
11. 「摩擦」は天の邪氣？(2)
12. 「力のつりあい」を応用する(2) : 反対牽引
13. 作用・反作用ってなに？
14. 力学を人体に適用する(1)
15. 力学を人体に適用する(2)
16. 試験

【テキスト】

『N e Wベッドサイドを科学する 一看護に生かす物理学一』 平田 雅子 著 学研

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度(15%)
2. 期末試験(85%)

科目区分：基礎	科目名：生物学	担当： 山本 芳実
単位：2単位(30時間)	開講期：1年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

生物学は 20 世紀後半に非常に大きな展開を見せ、今世紀は生命科学・生物科学の時代といわれるまでになった。食料・医療・環境などをめぐる様々な諸問題を理解し、対処するためには、生物学の基礎知識が必要である。生命誕生以来現在まで絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと生命活動を支える精妙な仕組みについて、基本的な事柄を中心に解説し、現代生物学の考え方と基礎知識を習得できるようにする。

【達成目標】

専門教育に必須の基礎的な生物学の基礎知識を習得する

【履修条件・注意事項】

高校までの生物学及び化学について復習しておくこと。

【授業計画】

1. 細胞：細胞の構造と機能
2. 代謝とエネルギー代謝：異化と同化、エントロピーとは？
3. 細胞分裂と生命の連続性：多細胞生物の形成
4. 減数分裂と遺伝
5. 遺伝と遺伝子
6. DNA と遺伝子：二重らせん、DNA 複製
7. タンパク質 1：生物はタンパク質の存在様式
8. タンパク質 2：細胞はタンパク質をつくる、セントラルドグマ
9. 組換え DNA 技術：人工的にタンパク質をつくる、クローン生物とは？
10. ゲノムプロジェクト：ゲノムとは？新しいゲノム観
11. 発生と分化 1：受精と発生
12. 発生と分化 2：発生のしくみ
13. 系統分類学：種の概念、進化の実態
14. 進化論：ダーウィン進化論と中立説
15. ヒトの進化：我々は進化の偶然の産物か？
16. 試験

【テキスト】

特に定めない（興味があれば、参考図書を一冊選択して下さい）

【参考図書】

『サイエンスビュー生物総合資料』 長野、牛木監修 実教出版
 『系統看護学講座 生物学』 高畑、増田、北田共著 医学書院

【成績評価】

1. 授業態度 (10 %)
2. レポート (20 %)
3. 確認テスト (70 %)

科目区分：基礎	科目名：情報科学 I	担当： 富田 公治
単 位：1単位（15時間）	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

コンピュータ初心者を想定したパソコン入門編。おもにワープロソフト（Word）と表計算ソフト（Excel）の実習を行う。

【達成目標】

- ・ファイルやフォルダ（ディレクトリ）の概念を理解し、管理できる。
- ・Wordを用いた文書の作成ができる。
- ・Excelの基本的機能（書式設定、基本的関数、グラフ）を使うことができる。

【履修条件・注意事項】

・USBメモリが必要ですが、初回の授業では持参しなくてもよいです。 初回にUSBメモリの購入等についても説明します。

【授業計画】

回	内容
第1回	Windows の操作
第2回	Word（文書・表）・課題
第3回	Word（ちらし）・課題
第4回	Excel（入力）
第5回	Excel（関数・参照）・課題
第6回	Excel（グラフ）・課題
第7回	Word・Excel 課題
第8回	課題提出締め切り

【テキスト】

『30時間でマスター Office2016』実教出版編集部 編 実教出版

【成績評価】

毎回の授業態度、出席、課題により総合的に評価する。

1. 授業態度、出席（30%）
2. 課題（70%）

2 年 次

基 础 科 目

◇ 英語Ⅱ（医学英語）

◇ 情報科学Ⅱ

理学療法学科

科目区分:基礎	科目名:英語Ⅱ(医学英語)	担当:幸柳 尚規
単位:1単位(15時間)	開講期:2年(前期-P・後期-O・S)	履修形態:必修

【授業の概要】

通常の英語ではあまりなじみのない医学英語に慣れるため、まず医学英単語について学び、各臓器について解説してある教科書を読む。

【達成目標】

- ・医学英単語の基本的な構成を理解する。
- ・英文の構造を意識しながら、和訳する。
- ・英文を通して、テキストの各单元の内容を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・辞書を各自用意すること。(電子辞書は可、スマートフォンは不可)
- ・解剖学の知識がある前提で授業を進めるため、復習を行っておくこと。

【授業計画】

1. ガイダンス(自己紹介、授業の進め方など)、CHAPTER 1 The Human Body
2. CHAPTER 2 The Skeletal System
3. CHAPTER 3 The Muscular System
4. CHAPTER 4 The Circulatory System
5. CHAPTER 7 The Digestive System
6. CHAPTER 8 The Urinary System
7. 総復習
8. 期末試験

【テキスト】

『医療従事者のための医学英語入門』 講談社

【参考図書】

スティッドマン医学大辞典 メジカルビュー社

【成績評価】

出席点(10点)+期末試験(各90点)=100点

科目区分：基礎	科目名：情報科学Ⅱ	担当：富田 公治
単位：1単位（15時間）	開講期：2年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使い方とスライドのまとめ方について学習する。表計算ソフト（Excel）の機能と応用を学習する。

【達成目標】

- ・PowerPoint の基本的な機能を使用することができる。
- ・Excel の基本的な関数の仕様とその他の有用な機能を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・USBメモリを使うので各自準備すること。

【授業計画】

回	内容
第1回	PowerPoint (1)
第2回	PowerPoint (2)
第3回	PowerPoint (3)
第4回	PowerPoint 課題
第5回	Excel (論理関数)
第6回	Excel (検索／行列関数)
第7回	Excel (その他の機能)
第8回	課題

【テキスト】

『30時間でマスター Office2016』 実教出版編集部 編 実教出版
 （情報科学Ⅰで使用したテキスト）

【成績評価】

毎回の授業態度、出席、課題により総合的に評価する。

1. 授業態度、出席 (30%)
2. 課題 (70%)

専門基礎科目

理学療法学科

1 年 次

専 門 基 础 科 目

- | | |
|-------------|---------------|
| ◇ 解剖生理学 I | ◇ 運動学 I |
| ◇ 解剖生理学 II | ◇ 運動学 II |
| ◇ 解剖生理学 III | ◇ 臨床心理学 |
| ◇ 解剖生理学 IV | ◇ 病理学 |
| ◇ 解剖学 I 実習 | ◇ 医学概論 |
| ◇ 解剖学 II 実習 | ◇ リハビリテーション概論 |
| | ◇ ボランティア論 |

科目区分：専門基礎	科目名：解剖生理学Ⅰ	担当：村瀬 ひろみ
単位：1単位(30時間)	開講期：1年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。

【達成目標】

- ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。
- ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器に働きを理解する。
- ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業はスライドを用いての講義となる。授業では口頭で説明する内容を理解するとともに、教科書を用いて、理解を深める努力をすること。

【授業計画】

1. 基礎知識 その1 形からみた人体
2. 基礎知識 その2 生体の構造と細胞生理
3. 消化と吸収の概要
4. 口腔内の解剖と機能 嘔下
5. 胃での消化と吸収
6. 腸での消化と吸収
7. 消化のまとめ 消化器官と神経支配
8. 中間試験
9. 呼吸器系の構造
10. 呼吸の生理
11. 呼吸運動の調整と病態
12. 循環器系の構造 血液循環と心臓
13. 心臓の構造と心臓の刺激伝導系
14. 心臓の神経支配と心電図
15. 心臓の機能障害 心拍、心音 他
16. 期末試験

【テキスト】

『系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①』 坂井 建雄 著者代表 医学書院

【参考図書】

『生理学テキスト』第7版
『カラースケッチ生理学Ⅱ』

大地 陸男 文光堂
永田 豊 監訳 廣川書店

【成績評価】

1. 授業態度
2. 中間試験及び期末試験

科目区分：専門基礎	科目名：解剖生理学Ⅱ	担当：村瀬 ひろみ
単位：1単位(30時間)	開講期：1年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。

解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。

【達成目標】

- ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。
- ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器に働きを理解する。
- ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業はスライドを用いての講義となる。授業では口頭で説明する内容を理解するとともに、教科書を用いて、理解を深める努力をすること。

【授業計画】

1. 末梢循環器系の構造、血管の機能
2. 血液の循環 肺循環と体循環
3. 血液の働きと血液成分 1 赤血球、白血球 他
4. 血液の働きと血液成分 2 血小板と血液凝固
5. 血行力学 血圧、静脈還流
6. 動静脈の主幹走行 上行動脈、大動脈弓、脳底動脈、上下大静脈 他
7. 循環の調節と病態
8. 中間試験
9. 腎臓の構造と機能
10. 尿の生成
11. 体液の循環
12. 酸塩基平衡
13. 排泄機能と病態
14. 栄養素と代謝 糖質代謝、脂質代謝 他
15. 基礎代謝とエネルギー代謝
16. 期末試験

【テキスト】

『系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①』 坂井 建雄 著者代表 医学書院

【参考図書】

『生理学テキスト』第7版
『カラースケッチ生理学Ⅱ』

大地 陸男 文光堂
永田 豊 監訳 廣川書店

【成績評価】

1. 授業態度
2. 中間試験及び期末試験

科目区分：専門基礎	科目名：解剖生理学Ⅲ	担当：児玉 順子
単位：1単位(30時間)	開講期：1年(前期)	履修形態：必修
【授業の概要】		
人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。 解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病や障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。		
【達成目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。 ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器の働きを理解する。 ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。 		
【履修条件・注意事項】		
・授業は板書を用いての学習となる。授業では口頭で説明する内容を理解し、授業後の復習に板書を書き写したノートと教科書を用いて、理解を深める努力をすること。		
【授業計画】		
<ol style="list-style-type: none"> 1、骨と骨格および関節 2、骨格筋と筋の収縮について1 3、骨格筋と筋の収縮について2 4、体幹の骨格と筋 5、上肢の骨格と筋 6、下肢の骨格と筋 7、頭頸部の骨格と筋 8、中間試験 9、神経系の構造と機能 10、脊髄と脳と神経 11、脳の高次機能 12、運動神経と下行伝導路 13、感覺神経と上行伝導路 14、感覺器(眼・耳・嗅覚・味覚)の構造 15、痛みのメカニズム 16、期末試験 		
【テキスト】		
『系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①』 坂井 建雄 著者代表 医学書院		
【参考図書】		
『生理学テキスト』 第7版 大地 陸男 文光堂		
『カラースケッチ生理学Ⅱ』 永田 豊 監訳 廣川書店		
『ギャノング生理学』 岡田 泰伸 監訳 丸善出版		
【成績評価】		
<ol style="list-style-type: none"> 1、中間試験及び期末試験にて平均60%以上の点数を獲得したものを合格とする。 2、自宅学習のための課題を数回提示する。およそ5~10%の点数加算とする。 		

科目区分：専門基礎	科目名：解剖生理学IV	担当：児玉 順子
単位：1単位(30時間)	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

人間の基本的な体の仕組みを学問する「解剖学・生理学」を1年間で学習していく。

解剖学・生理学を学習することで今後学んでいく疾病や障害についての考え方の基礎をしっかりと構築する。

【達成目標】

- ・人間を構成している細胞や組織の仕組みを正しく理解する。
- ・身体の機能を維持している筋肉・神経・各臓器の働きを理解する。
- ・各器官のお互いの関係を学習し、最終的には統合的に体の仕組みを理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業は板書を用いての学習となる。授業では口頭で説明する内容を理解し、授業後の復習に板書を書き写したノートと教科書を用いて、理解を深める努力をすること。

【授業計画】

- 1、皮膚の構造と機能
- 2、生体の防御機構
- 3、免疫による特異的防御機構
- 4、代謝と運動
- 5、運動とエネルギー
- 6、体温とその調節
- 7、自律神経による調節
- 8、中間試験
- 9、内分泌による調節
- 10、全身の内分泌腺と内分泌細胞
- 11、ホルモン分泌の調節
- 12、ホルモンによる調節の実際
- 13、男性生殖器と女性生殖器
- 14、受精と胎児の発生
- 15、成長と老化
- 16、期末試験

【テキスト】

『系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①』 坂井 建雄 著者代表 医学書院

【参考図書】『生理学テキスト』 第7版 大地 陸男 文光堂

『カラースケッチ生理学II』 永田 豊 監訳 廣川書店

『ギャング生理学』 岡田 泰伸 監訳 丸善出版

【成績評価】

- 1、中間試験及び期末試験にて平均60%以上の点数を獲得したものを合格とする。
- 2、自宅学習のための課題を数回提示する。およそ5~10%の点数加算とする。

科目区分： 専門基礎	科目名：解剖学Ⅰ実習	担当： 前田・楫野
単位：1単位（30時間）	開講期：1年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

解剖生理学で学ぶからだの仕組みについて、理学療法場面で必要となることを中心に、知識の復習を交えながら触察技術を身に付ける。

【達成目標】

- ・運動器障害、神経障害、内部障害理学療法に関する解剖知識の復習と再習得。
- ・骨、筋、脈管を中心とした触察技術の習得。

【履修条件・注意事項】

- ・講義と実技を組み合わせた授業のため、準備と片付けは確実に行ってください。
- ・服装は、基本はトレーニングウェアです。触察場所によってはTシャツ、短パンが必要です。
装飾品を身に付けての出席は認めません。
(服装の不備は授業態度の評価に反映します。)

【授業計画】

1. オリエンテーション	・・・講義
2. 解剖学の基礎：解剖学用語（方位）、細胞、組織学総論、骨学総論	・・・講義、演習
3. 運動器解剖：骨学①：椎骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙椎）	・・・講義、演習
4. " ②：肩甲骨・鎖骨・上腕骨	
5. " ③：前腕・手	
6. " 筋学①：体幹背側・上肢帯	・・・講義、演習
7. " ②：上腕・前腕	
8. " ③：手	
9. " 触察①：上肢帯	・・・講義、演習
10. " ②：上腕	
11. " ③：前腕	
12. " ④：体幹	
13. その他 神経：上肢末梢神経	・・・講義、演習
14. " 脈管：上肢動脈・静脈・リンパ管	
15. まとめ	

【テキスト】

- 『改訂版ボディ・ナビゲーション』 阪本 桂造 医道の日本社
 『プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版』 医学書院

【参考図書】

- 『骨格筋の形と触察法』 河上 敬介 大峰閣
 『基礎運動学』 中村 隆一・斎藤 宏 医歯薬出版
 『ネットー 解剖学アトラス 原著第6版』 相磯 貞和 南江堂

【成績評価】

- 授業態度（20%）
- 演習課題（20%）
- 筆記試験（30%）
- 実技試験（30%）

科目区分：専門基礎	科目名：解剖学Ⅱ実習	担当：前田・楫野
単位：1単位（30時間）	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

解剖生理学で学ぶからだの仕組みについて、理学療法場面で必要となることを中心に、知識の復習を交えながら触察技術を身に付ける。

【達成目標】

- ・運動器障害、神経障害、内部障害理学療法に関する解剖知識の復習と再習得。
- ・骨、筋、脈管を中心とした触察技術の習得。

【履修条件・注意事項】

- ・講義と実技を組み合わせた授業のため、準備と片付けは確実に行ってください。
- ・服装は、基本はトレーニングウェアです。触察場所によってはTシャツ、短パンが必要です。
装飾品を身に付けての出席は認めません。
(服装の不備は授業態度の評価に反映します。)

【授業計画】

- | | | |
|------------------------|---|-------|
| 1. 運動器解剖：骨学①：寛骨・仙骨 | … | 講義、演習 |
| 2. " ②：大腿骨・下腿骨 | … | |
| 3. " ③：足 | … | |
| 4. " 骨学触察①：骨盤帶 | … | |
| 5. " ②：大腿骨・下腿骨 | … | |
| 6. " ③：足部 | … | |
| 7. その他 脈管：下肢動脈・静脈・リンパ管 | … | |
| 8. 運動器解剖：筋学①：腰部・臀部 | … | |
| 9. " ②：大腿部 | … | |
| 10. " ③：下腿部・足 | … | |
| 11. " 筋学触察①：骨盤帶 | … | |
| 12. " ②：大腿部 | … | |
| 13. " ③：下腿部・足部 | … | |
| 14. その他 神経：下肢末梢神経 | … | |
| 15. まとめ | … | |

【テキスト】

- 『改訂版ボディ・ナビゲーション』 阪本 桂造 医道の日本社
 『プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版』 医学書院

【参考図書】

- 『骨格筋の形と触察法』 河上 敬介 大峰閣
 『基礎運動学』 中村 隆一・斎藤 宏 医歯薬出版
 『ネットー 解剖学アトラス 原著第6版』 相磯 貞和 南江堂

【成績評価】

1. 授業態度（20%） 2. 演習課題（20%） 3. 筆記試験（30%）
 4. 実技試験（30%）

科目区分： 専門基礎	科目名：運動学Ⅰ	担当： 吉富 智江
単 位：1 単位（30時間）	開講期：1年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

運動学はヒトの身体運動の仕組みに関する学問である。正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、運動学Ⅰではヒトの運動を考える上で基盤となる総論に加え、脊椎と肩関節の運動について詳しく学習する。

【達成目標】

- ・運動力学に基づく運動の記述と解釈について理解する。
- ・筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・後半では骨模型等を使いながらグループ学習をします。グループ内で積極的に見て、触りながら、お互いに学習していくこと。

【授業計画】

＜総論＞

1. 運動学とは、身体運動の面と軸、関節運動
2. 運動学・運動力学の基礎①（並進運動と円運動、重力、筋張力、スカラーとベクトル）
3. 運動学・運動力学の基礎②（ニュートンの運動法則、モーメント、てこ、滑車）
4. 生体の構造と機能（関節の構造と機能）
5. 生体の構造と機能（筋の構造と筋線維の種類）
6. 生体の構造と機能（運動単位、筋収縮様態）
7. 生体の構造と機能（筋長 - 速さ - 筋張力の関係）

※中間試験

＜各論＞

8. 脊椎の構造と各椎骨の特徴
9. 椎骨の運動、脊椎の韌帯
10. 体幹の筋、脊椎の可動性と椎骨の傾斜性
11. 胸郭の構造と呼吸の運動学
12. 肩関節総論（広義の肩関節）
13. 肩関節の構造と機能
14. 肩関節の共同作用
15. 肩甲上腕リズム、肘関節の構造と機能

※期末試験

【テキスト】

- | | | |
|----------------------|--------------|-------|
| 『基礎運動学』 | 中村 隆一・斎藤 宏 | 医歯薬出版 |
| 『プロメテウス解剖学アトラス』 | 坂井建雄・松村譲兒 監修 | 医学書院 |
| 『PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート』 | 中島雅美・中島喜代彦 | 医歯薬出版 |

【参考図書】

- | | |
|------------------------------|--------|
| 『図解 関節運動器の機能解剖（上肢・脊柱編）』 井原秀俊 | 協同医書出版 |
|------------------------------|--------|

【成績評価】

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 小テスト（10%） | 2. 中間・期末試験（90%） |
|--------------|-----------------|

科目区分：専門基礎	科目名：運動学Ⅱ	担当：吉富 智江
単位：1単位（30時間）	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

運動学Ⅰで理解した運動力学の知識や筋骨格系の機能解剖を基に、①各関節の運動機能、②姿勢の安定性、③正常歩行と異常歩行、④運動学習について学習する。

【達成目標】

- ・上肢、下肢の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を理解する。
- ・姿勢とバランス機能について理解する。
- ・正常歩行と異常歩行について理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・骨模型等を使いながらグループ学習します。グループ内で積極的に見て、触りながら、お互いに学習していくこと。

【授業計画】

1. 前腕の運動学（前腕の回内・回外運動軸、靭帯）
2. 前腕の運動学（筋と支配神経）
3. 手関節・手指の運動学（手関節・手指の構造と運動、手のアーチ、手指の靭帯）
4. 手指の運動学（手指の筋と神経、屈曲・伸展メカニズム、手の変形）
5. 股関節の運動学（股関節の構造と運動）
6. 股関節の運動学（新生児の股関節）
7. 股関節の運動学（筋と神経、パウエルの理論と異常歩行）
- ※中間試験
8. 膝関節の運動学（膝関節の構造、靭帯・筋）
9. 膝関節の運動学（大腿脛骨関節の構造と運動）
10. 膝関節の運動学（膝蓋大腿関節の構造と運動）
11. 足関節の運動学（足関節の構造と運動、足部アーチ）
12. 足関節の運動学（足関節の靭帯・筋）
13. 姿勢保持とバランス機能、歩行（基礎、歩行周期）
14. 歩行（歩行時の関節運動、筋活動、床反力）
15. 歩行（異常歩行）、運動学習
- ※期末試験

【テキスト】

- | | | |
|----------------------|--------------|-------|
| 『基礎運動学』 | 中村 隆一・齊藤 宏 | 医歯薬出版 |
| 『プロメテウス解剖学アトラス』 | 坂井建雄・松村譲兒 監修 | 医学書院 |
| 『PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート』 | 中島雅美・中島喜代彦 | 医歯薬出版 |

【参考図書】

- | | | |
|-----------------------------|------|--------|
| 『図解 関節運動器の機能解剖（上肢・脊柱編、下肢編）』 | 井原秀俊 | 協同医書出版 |
|-----------------------------|------|--------|

【成績評価】

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 小テスト（10%） | 2. 中間・期末試験（90%） |
|--------------|-----------------|

科目区分：専門基礎	科目名：臨床心理学	担当：棄原 郁子
単位：1単位(30時間)	開講期：1年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床心理学とは何かを教科書で学び、病者や家族の心理・援助の実際についてビデオや資料を用いて学ぶ。

【達成目標】

- ・人間の精神世界について知り、人間の行動の背景にある思いへの理解を深める。
- ・患者、家族の闘病生活の一部を知ることにより、実際の接し方についての理解を深める。
- ・テーマごとの資料から他者の考えに触れることにより、物事を多面的に捉える力を身につける。
- ・自分の考えをまとめ、他者に伝える力を育てる。

【履修条件・注意事項】

- ・1コマ目は教科書に沿った授業を行い、2コマ目はビデオ視聴した後感想文を書く。
- ・感想文が評価の対象となるので必ず提出すること。
- ・毎回出される感想文のまとめ、新聞資料には目を通しておくこと。

【授業計画】

1. 臨床心理学とは
2. ビデオ・資料：病気を持つ子ども達の心理について
3. 心理援助の基礎を学ぶ－人格理論
4. ビデオ・資料：出生前診断について
5. 心理援助の基礎を学ぶ－発達理論
6. ビデオ・資料：児童虐待について
7. 対象を理解する－心理アセスメント：知能検査・発達検査
8. ビデオ・資料：発達障害について
9. 対象を理解する－心理アセスメント：人格検査・その他の心理検査
10. ビデオ・資料：ALS患者と家族の実際
11. 心理援助の方法を知る－心理療法Ⅰ
12. ビデオ・資料：認知症介護の実際
13. 心理援助の方法を知る－心理療法Ⅱ
14. 講義・ビデオ－心理援助の実際
15. ビデオ・資料：終末期訪問医療の実際
16. 筆記試験

【テキスト】

『心とかかわる臨床心理』第2版

川瀬 正裕

ナカニシヤ出版

【参考資料】

ビデオ感想文のまとめ資料とテーマごとの新聞資料

【成績評価】

1. 授業態度・ビデオ視聴感想文(50%)
2. 確認テスト(50%)

科目区分：専門基礎	科目名：病理学	担当：森本 宏志
単位：1 単位 (30時間)	開講期：1年 (後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

・病理学は、医学・医療において「基礎」と「臨床」の境界領域に位置する学問であり、疾病に関する「何(what)」と「なぜ(why)」を追及する学問であり、科学としての医学・医療(=EBM)の基盤となる学問である。この講義では、疾病一般に関する捉え方の基本としての「病理学総論」を中心に説明し、疾病現象を理解するために必要な基本概念や基本用語を体系的に説明するとともに、common diseaseについての基本的知識についての学習の機会を提供する。

・リハビリテーションは障害を軽減させ、残存能力を高め、社会への再適応を促進する目的で展開されるものであり、疾病の「三次予防」として位置づけらが、これを適時・的確に行うには、正常状態での構造や機能(解剖・生理)の知識の基盤の上に、障害発生に関連する疾患について体系的に理解し、基本事項を身につけておくことは必要であると同時に有用でもあるからである。

【達成目標】

- ・病理総論に関連して、疾病に共通する現象や疾病に関する基本概念・基本用語について、体系的に理解し、記憶し、説明できる。
- ・病理各論に関連して、代表的な疾患(副読本で取り上げてある約50の疾患)についての基本事項を病理総論と関連づけながら体系的に理解し、記憶し、簡単な説明ができる。

【履修条件・注意事項】

- ・毎回の授業開始後5分、終了前5分で小テスト、振返りアンケートを行いその提出で出席確認とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション(講義の進め方と目標、課題について、単位認定試験について等)。
病理学の体系について
2. 病とはなにか。医学・医療における病理学の位置づけ。
病因論とEBM…科学としての医学・医療、研究法と倫理的制約・限界
3. 病因分類、疾病の基本分類と病理総論体系
4. 疾病の基本プロセス(侵害刺激と生体の基本的反応)(1):萎縮と肥大、化生と変性
5. 疾病の基本プロセス(侵害刺激と生体の基本的反応)(2):壞死、組織の修復と再生、治癒
6. 循環障害(1):局所の循環障害
7. 循環障害(2):全身性循環障害
8. 炎症と免疫(1):炎症と免疫の関係、炎症の基本過程と炎症の形態的分類
9. 炎症と免疫(2):免疫と免疫の異常(免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患)
10. 炎症と免疫(3):移植、再生医療、感染症
11. 代謝障害
12. 先天異常と遺伝子異常(1):先天異常と遺伝子異常の関係
13. 先天異常と遺伝子異常(2)
14. 腫瘍(1)
15. 腫瘍(2)
16. 試験

【テキスト】

- ・【主】『系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 (第5版)』
大橋健一／谷澤徹／藤原正親／柴原純二著 医学書院
 - ・【副】『学生のための疾病論・人間が病気になるということ (第2版)』井上泰著 医学書院
- 【参考図書】
- ・人体の構造と機能 (第4版) エレイン N. マリーブ 著 医学書院

【成績評価】

1. 期末試験(100%)
2. 出席(期末試験受験資格としてのみ評価。)
3. 各回課題(0%: 各回の出席の証拠として評価するが、最終成績の点数へは反映させない。)

科目区分：専門基礎	科目名：医学概論	担当：小林 誠
単位：1単位（15時間）	開講期：1年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

医療は医学の実践のもとに、身体的・精神的ならびに社会的により健康・健全な個人と社会を作ることを目標にしている。その目標達成するために、まず、健康と疾患に関する基礎概念を理解することが重要である。また、医療従事者としての自宅と専門職として医療に対しうる認識を持つことが要求される。

以上のこと踏まえ、新たに医学医療を志す1年生にわかりやすく講義する。

【達成目標】

- ・これまでの医学がどのように理解され、実践されてきたかを知る。
- ・医療の基本概念が、医学医療と人の関わり合いにどのような影響を与えて来ているのかを学ぶ。
- ・プロフェッショナルとして、リハビリテーションの対象者（患者、利用者 他）に寄り添える自覚を持つ。
- ・臨床医学、予防医学の概要を通じて、リハビリテーションの重要性に気づく。

【履修条件・注意事項】

積極的に授業に参加すること

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 近代医学の発展と医の倫理
ヘルシンキ宣言とインフォームド・コンセント
脳死判定と尊厳死
3. 人口統計と疾病の変化
4. 健康・病気・医学の体系
5. 病気の原因
6. 病気の治療とリハビリテーション
7. 病気の予防
予防医学と衛生学、生活習慣病、定期的健康診断 他
8. 筆記試験

【テキスト】

必要な資料は、適宜配布する

【参考図書】

【成績評価】

1. 授業態度・参加度(30%)
2. 期末試験(70%)

科目区分：専門基礎	科目名：リハビリテーション概論	担当：吉村 静馬 他
単位：1 単位 (30時間)	開講期：1 年 (前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

私たちの生活は、社会情勢や経済状態によって変えざるをえない。医療においても、移植や再生医療技術の進歩によって不治の病から解放される日もそう遠くないが、生命に限りがあり、その生活に制限（障害）を生じることはやむを得ないことである。

現代社会において一番弱い立場にある子どもや高齢者、障害者の生きる抜く仕組みをリハビリテーションという観点から概観する。

【達成目標】

- ・「リハビリテーション」に関連する用語（医療保健福祉の領域）について理解する。
- ・保健医療福祉とりハビリテーションについて理解する
- ・「リハビリテーション」と「所謂 リハビリ」の違いを明確に説明できるようになる

【履修条件・注意事項】

- ・授業は、事前に教科書に目を通していることを前提に「スライド」「DVD」を中心に行う。
- ・知識確認テスト（期末試験）は、教科書と配布した資料からの出題。
ノートを作り、配付資料はファイリングすること。

【授業計画】

・ 基本的には、教科書「リハビリテーション概論」にそって進む。

1. オリエンテーション 日本を知る（発展途上国の現実と日本）
2. 日本国憲法とりハビリテーション
3. 障害論 その1 リハビリテーションの概念・理念・定義
4. 障害論 その2 健康と疾病とICF・ICIDH ~
5. 障害者の心理と障害受容
6. インフォームド・コンセントと障害受容
7. リハビリテーションの過程 その1
8. リハビリテーションの過程 その2
9. リハビリテーションの諸段階
　　医学的・教育的・職業的・社会的リハビリテーション
10. リハビリテーション医療における専門職の役割
11. リハビリテーションを支える施策
12. 在宅医療と在宅福祉 ~ 社会参加とりハビリテーション ~
13. 生活を支える社会の仕組み：社会保障制度
14. 少子高齢化社会とりハビリテーション
15. 地域包括ケアシステムとりハビリテーション専門職
16. 期末試験

【テキスト】

『リハビリテーション概論 改訂第4版』 田島 文博 編著 永井書店

【参考図書】

【成績評価】

1. 受講参加度（授業のポイント提出 30%）
2. 確認試験（60%）
3. その他（10%）

科目区分：専門基礎	科目名：ボランティア論	担当：村上、川北、吉村 他
単位：1 単位（15時間）	開講期：1 年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

ボランティアとは奉仕の意味ではなく、自分の持てる能力を発揮できる場であると同時に同じ空間を共有した全ての仲間と共感できる活動であり、歩家に両福祉を学ぶ者としては必須の事柄である。しかし、ボランティアを正しく理解していかなければ、その感動を味わうことは出来ない。

この授業では、ボランティア活動の意義を解説し、専門職としての活動に繋げていけるよう導く。

【達成目標】

- ・人と関わる専門職（対人接觸業）として最低限のマナーを身につける。
- ・ボランティアを必要としている方々に「専門職としての関わり」とは何かを考えるきっかけとする。

【履修条件・注意事項】

- ・多くの活動の援助方法として「ボランティアは必須である」という認識を持って積極的に授業に参加すること。
- ・人間関係（コミュニケーション）の作りを意識し、対象者や他職種と正対すること。
- ・授業開始までのボランティアを経験すること。

【授業計画】

1. 授業オリエンテーション ボランティアとは
ボランティアの4原則
2. ボランティア活動（半日程度）
3. 専門職としてのボランティア活動
4. 災害・震災におけるボランティア実践
5. 海外でのボランティア実践
6. まとめ

① 授業オリエンテーションは、前期期間中に行う。

ボランティアの内容等については、オリエンテーションで説明する。

② 後期授業開始までにボランティアを行い「ボランティア活動証明書」を貰う

③ その他

【テキスト】

特に定めない

【参考図書】

特に定めない

【成績評価】

1. ボランティア活動報告書（50%）
2. 課題レポート（30%）
3. その他（20%）

2 年 次

専 門 基 础 科 目

- | | |
|----------|----------------|
| ◇ 運動生理学 | ◇ 神経内科学 |
| ◇ 生理学実習 | ◇ 精神医学 |
| ◇ 運動学実習 | ◇ 整形外科学 I |
| ◇ 人間発達学 | ◇ 整形外科学 II |
| ◇ 内科学 I | ◇ リハビリテーション医学 |
| ◇ 内科学 II | ◇ 地域リハビリテーション学 |
| ◇ 小児保健学 | |

科目区分:専門基礎	科目名:運動生理学	担当:塩田 正俊
単位:1単位(30時間)	開講期:2年(後期)	履修形態:必修

【授業の概要】

神経・筋、呼吸循環等の生理的機能について概説する。また、運動に対する神経・筋および呼吸循環機能の変化や運動トレーニングによるそれらの適応について、生理学的機序も含んで講義する。

【達成目標】

- 運動に対する神経・筋および呼吸循環機能の変化について、運動の条件による違いを説明できる。
- 運動トレーニングに対する運動時の神経・筋および呼吸循環機能の適応について、運動トレーニングの種類による違いを説明できる。

【履修条件・注意事項】

欠席が4回以上の者には単位を与えない。

【授業計画】

- 健康と運動と体力の理解
- 骨格筋の形態と収縮のメカニズム
- ヒト骨格筋の筋線維タイプおよび筋力発揮特性
- 骨格筋の適応と変化
- 神経系の基本的構造と機能
- 運動・トレーニングと神経系
- 内分泌系の生理学的基礎
- 運動時のホルモン分泌変化と生理作用
- 免疫系の生理学的基礎
- 呼吸循環系の生理学的基礎(呼吸器系)
- 呼吸循環系の生理学的基礎(心循環器系)
- 運動時の呼吸循環系応答と呼吸循環系適応
- 運動と体温調節
- 消化器系の基本的構造と機能
- 泌尿器系の基本的構造と機能
- 試験

【テキスト】

『スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識』 村岡功編著 市村出版

【参考図書】

【成績評価】

小テスト並びに期末試験で評価する。

科目区分：専門基礎	科目名：生理学実習	担当：楫野允也 他
単位：1単位(45時間)	開講期：2年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

1年次の生理学を踏まえ、環境の変化に対する生体の反応について実習を通して、その理解を深める。医療従事者として必須であるバイタルサイン測定技術を習得する。

【達成目標】

1. 1年次の生理学を理解し、生体反応について実習を通して理解を深める。
2. 医療従事者としてバイタルサイン等の測定技術を習得する。
3. 医療従事者として必要な検査機器を使用し、結果を読み解くことができる。
4. 研究論文等におけるデータ収集処理の仕方を学ぶ。

【履修条件・注意事項】

実習に参加しない、意欲がないと判断した場合、授業中に声掛けを行う。
声掛けを行っても変化のない場合は、授業実習態度に影響を与えるものとする。

【授業計画】

(数字は回数)

1. レポートの書き方
- 2～4. 脈拍・血圧・体温測定について 講義と実習
- 5～7. 感覚機能について 講義と実習
- 8～10. 心電図について 講義と実習
- 11～13. 呼吸数・胸郭拡張差・酸素飽和度について 講義と実習
- 14～16. 筋電図について 講義と実習
- 17～19. 肺機能検査について 講義と実習
- 20～23. バイタルと運動(有酸素運動・無酸素運動)について 講義と実習

【テキスト】

- 『系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①』 坂井達雄 医学書院
 『理学療法評価学 第6版補訂版』 松澤 正 金原出版
 『生理学ノート』 中島雅美 医歯薬出版株式会社

【参考図書】

- 『理学療法ハンドブック 第1巻 第4版』 細田多穂 協同医書出版社
 『内部理学療法学 第1版』 高橋哲也 医歯薬出版株式会社

【成績評価】

筆記試験(60%) 課題(30%) 授業・実習態度(10%)

科目区分：専門基礎	科目名：運動学実習	担当：村上博子
単位：1単位（30時間）	開講期：2年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

1年次に学んだ解剖学・運動学の内容について、観察・分析をし、検査測定や運動療法などの理学療法の場面で求められる知識の再修得と技術の修得を目指します。

【達成目標】

- ・10m歩行テストを用いて、客観的データから人の動きの要素について考えるポイントを理解する。
- ・関節運動を構成する要素について理学療法士の視点から考察できるようになる。
- ・立位姿勢保持と立ち上がり動作の構成要素について考察できるようになる。

【履修条件・注意事項】

- ・それぞれの実習に対し、発表やレポート提出などの課題が設定されています。
- ・授業中の服装も、内容によって指定します。不備については、授業への取り組みとして評価します。
- ・内容によって教室や授業形態が変わるので、準備・片づけを確実に行って下さい。

【授業計画】

1. 機能解剖学（関節運動）：代表的な関節運動（肩関節と股関節）について、関節可動域を測定し、その結果に関与する因子について考察する。
2. 歩行観察：理学療法の場面で用いる10m歩行テストを行い、得られたデータをもとに、歩行の状態を考察する。
3. 姿勢・動作観察：基本姿勢・動作について、運動の構成要素を知ると共に、観察のポイントを学ぶ。
 - ① 様々な立位姿勢を設定し、運動力学的視点を踏まえた観察・考察を行う。
 - ② 立ち上がり動作を中心に動作観察を行う。
4. まとめ

【テキスト】

- | | | |
|-------------------------|-----------|-------|
| 『基礎運動学』 | 中村隆一・齊藤 宏 | 医歯薬出版 |
| 『PT・OTのための運動学テキスト』 小柳 他 | | 金原出版 |
| 『理学療法評価学』 岩倉 博光 | | 金原出版 |

【参考図書】

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 実習課題（80%）：歩行発表（20%） 関節運動レポート（20%）
姿勢観察（20%） 動作観察（20%）

科目区分：専門基礎	科目名：人間発達学	担当：福田 みのり
単位：1単位(30時間)	開講期：2年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

発達段階ごとに概説し、講義内容や教科書を踏まえて各自が持った問題意識をグループで共有し、その中から2~3つのテーマについてグループで深め、発表を行うことで、学習した内容を自分たちの生活と結びつけて考えていく視点を養う。

【達成目標】

- ・三学科それぞれの受講生が、将来的に向かい合うクライエントの発達段階の特徴を理解し、彼らを支援するのに必要な知識と社会的スキルの獲得を目指す。
- ・複雑で厄介な問題に出くわしたとき、どのような課題解決への道を見つけ出していくのか、問い合わせ、実践するための基礎的な力を涵養する。

【履修条件・注意事項】

講義者の講義比重を軽く、受講者の思考、発言、発表スキルの発展を促す、アクティブラーニング形式の講義形態であるので、真摯且つ積極的な受講態度を期待する。

【授業計画】

1. オリエンテーション、生涯発達心理学	…講義
2. 発達の原則と理論	…講義
3. 発達とは、人口問題と発達	…演習
4. 胎児期と乳児期の特徴	…講義
5. 子育て・乳児期・愛着をめぐる課題	…演習
6. 幼児期の特徴－視点の獲得	…講義
7. 幼児期における遊び・自己認識・他者認識	…演習
8. 児童期の特徴－リテラシーと社会性	…講義
9. 教育・ジェンダーをめぐる課題	…演習
10. 青年期の特徴－アイデンティティの獲得	…講義
11. 知能・アイデンティティをめぐる課題	…演習
12. 成人期の特徴－次世代を育てる	…講義
13. 親になることをめぐる課題	…演習
14. 老年期の特徴	…講義
15. 老年期の課題、時間と発達	…演習
16. まとめ、テスト	

【テキスト】

『子どもも育つ おとなも育つ 発達の心理学』 柏木恵子 萌文書林

【参考図書】

『リハビリテーション医学講座2 人間発達学』 上田 礼子 医歯薬出版
『生涯発達心理学のすすめ』 子安増生 有斐閣選書

【成績評価】

演習発表、グループワーク成果(30%)
レポート形式テスト(70%)

科目区分：専門基礎	科目名：内科学Ⅰ	担当：済生会山口総合病院
単位：1単位(30時間)	開講期：2年(前・後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

高齢化に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化は、リハビリテーションニーズに直結し、多くの方が私たち専門職とかかわりを持つことになる。この領域における疾病的特徴・病態・内科的治療を理解することは重要である。

その一方で高血圧、糖尿病、心疾患などの生活習慣病の予防は、医療費等の高騰を防ぐためにも優先されるべきものと位置付けられており、生活習慣の改善も専門職の興味を持つべき領域である。

【達成目標】

- ・高齢者が罹患しやすい疾病についての理解を深める
- ・生活習慣病の予防対策を述べることができる

【履修条件・注意事項】

- ・1年次の生理学の復習をしながら、授業に臨むこと。
- ・教科書にて授業内容を振り返ること。

【授業計画】

1. 消化器疾患 5回

- 消化管疾患の症候とその病態生理
- 消化管疾患各論

2. 腎・泌尿器疾患 5回

- 腎疾患の症候とその病態生理
- 腎・泌尿器疾患各論

個々の領域において、筆記試験が実施される（全て60点以上で合格）

「内科学Ⅰ」「内科学Ⅱ」は、

前期15回、後期15回の講義の科目ですが、講師の都合により前後期30回の授業で開講。

【テキスト】

『標準理学療法学作業療法学 内科学』 大成 浩志 医学書院

【参考図書】

【成績評価】

- 1. 授業態度 (20%)
- 2. 筆記試験の総点 (80%)

科目区分：専門基礎	科目名：内科学Ⅱ	担当：済生会山口総合病院内科医師、國近英樹、岩本節子
単位：1 単位(30時間)	開講期：2年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

内科疾患の中でも、循環器系の障害のリハビリテーション分野に占める割合は大きい。特に、心疾患や呼吸器疾患の病態を理解することは重要である。また、健康寿命の延長に伴って高齢者の健康管理も予防という観点からも重要視され、強いては健康寿命の延伸へ直結する分野でもある。

後半は、「高齢者の健康」に焦点をあて、内科疾患への理解を深める。

【達成目標】

- ・循環器系の疾患についての知識を深める。
- ・「高齢者の健康増進」のキーワードを述べることができる。

【履修条件・注意事項】

- ・1年次の生理学の復習をしながら、授業に臨むこと。
- ・「高齢者の健康」についてイメージできるようになる。

【授業計画】

1. 循環器疾患 7回

循環器疾患の症候とその病態生理

循環器疾患 各論

2. 血液疾患・内分泌 5回

血液疾患の主な症候

血液疾患各論

内分泌総論

内分泌疾8

3. 老年期医学 8回

老化と疾病

老化症候群

循環器疾患

呼吸器疾患

糖尿病

老人と健康管理各

個々の領域において、筆記試験が実施される（全て60点以上で合格）

【テキスト】

『標準理学療法学作業療法学 内科学』

大成 浩志

医学書院

【参考図書】

【成績評価】

1. 授業態度 (30%)

2. 筆記試験の総点 (70%)

科目区分：専門基礎	科目名：小児保健学	担当：田原卓浩、吉村靜馬
単位：1 単位 (30時間)	開講期：2 年 (前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

成長・発達過程にある子どもの特性をふまえ、小児疾患についての理解を深める。

また、心身の問題だけでなく小児をとりまく環境（母子関係、社会情勢 等）にも目を向け、健全な発達が保障されるよう医療人としての意識を養い育てる。

【達成目標】

- ・自分の子どもの育つ道筋を客観的に捉えられるような専門職としての力量を備える
- ・子どもの障害の概要を理解する。
- ・障害児の特性の理解とその対応が考えられる。

【履修条件・注意事項】

- ・各学科の専門科目の基礎をなす授業内容です。正常発達を理解しようとする姿勢を求める。
- ・（日々、臨床に携わる医師が講義するということを意識して、受講すること）

【授業内容】

田原先生 ・・・ 4回

1. 子どもの病気（含 感染症の予防）
2. 子どもの病気とホームケア
3. 子どもと家族を取り巻く環境の変化
4. 大事にしたい子育て術 他

吉村 ・・・ 12回

1. 授業オリエンテーション 「生まれる」ということ
2. 子どもの成長と発達 新生児～乳幼児
3. 子どもの発達 運動・社会性の発達 その1
4. 子どもの発達 運動・社会性の発達 その2
5. 乳幼児健診とそのフォロー：遠城寺式乳幼児分析的検査の応用
6. 子どもを取り巻く社会 少子高齢化
7. 障害児学：子どもの障害の特徴を知る その1 知的発達と軽度発達障害
8. 障害児学：子どもの障害の特徴を知る その2 肢体不自由児 その1
9. 障害児学：子どもの障害の特性を知る その3 肢体不自由児 その2
10. 障害のある子の子育て（療育）
11. 子どものリハビリテーション
12. 確認試験

【テキスト】

『すくすく赤ちゃん』

田原 卓浩

赤ちゃんとママ社

【参考図書】

各学科の小児領域の教科書

【成績評価】

1. 授業態度・参加度 (30%)
2. 確認試験 (70%)

科目区分：専門基礎	科目名：神経内科学	担当：村重 武美 他
単位：1 単位 (30時間)	開講期：2年（前期）	履修形態：必修

【授業概要】

リハビリテーションに携わる専門職として、神経症候学及び診断学の理解は必須です。
病院施設で治療・関係する患者や利用者の病態の理解なくして、専門職としての技術の展開・発展はない。機能解剖学をベースにして、臨床的な病態・症状について講義する。

【達成目標】

- ・1年次の「解剖学・生理学」を臨床的（病態・症状）に理解する。
- ・脳血管障害・神経筋疾患等のリハビリテーションに必要な知識を習得する。

【履修条件・注意事項】

- ・1年次の解剖学生理学の復習をしながら授業に臨むこと（授業日、帰宅後に復習）。
（専門医の授業には、解剖学生理学は含まれない）
- ・神経内科学は、リハビリテーションにおいて重要な領域であるという認識で授業に臨むこと。

【授業内容】。

- I 神経内科学と解剖生理学 (3コマ)
機能解剖、神経系障害の病態、神経学的検査 他
- II 神経症候学（村重先生担当）
1. オリエンテーション（神経症候学）
 2. 神経放射線学
 3. 神経電気生理学
 4. てんかん、脳炎
 5. パーキンソン病
 6. 運動ニューロン疾患
 7. トピックス
- III 神経疾患とりハビリテーション
1. 脳血管障害
 2. パーキンソン病関連疾患
 3. 筋肉疾患
 4. 脱髓疾患
 5. 認知症疾患 他

※試験は、3回実施（村重先生、他担当分、期末試験）

他担当分 未定、村重先生：6月下旬、期末試験：8月上旬

【テキスト】

『病気がみえる vol. 7 脳・神経』

MEDIC MEDIA

【参考図書】

適宜紹介する

【成績評価】

1. 授業態度 (20%)
2. 筆記試験 (80%)

科目区分：専門基礎	科目名：精神医学	担当：非常勤講師
単位：1単位(30時間)	開講期： 2年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

リハビリテーションに携わる者の実践に役立つ精神医学の基本知識として、精神疾患の症状、経過、診断、治療の基礎を学ぶ。また、現代社会における精神科領域の諸問題について知り、メンタルヘルスの重要性や精神医療の果たす役割などについて学習する。

【達成目標】

- ・主要な精神疾患の症状について理解する。
- ・精神疾患に対する薬物療法をはじめとする治療について理解する。
- ・メンタルヘルスの重要性・精神医療の果たす役割を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・資料を配布する場合もあるが、毎回テキストを持参すること。

【授業計画】 *講義の順序は変更される場合があります。

1. 精神医学の概要(精神医学とは、歴史、精神医学を学ぶ意義など)…講義
2. 精神障害の成員と分類、精神機能の障害と精神症状…講義
3. 統合失調症①…講義
4. 統合失調症②…講義
5. 気分障害…講義
6. アルコール依存症①…講義
7. アルコール依存症②…講義
8. 思春期・青年期の精神障害①…講義
9. 思春期・青年期の精神障害②…講義
10. 思春期・青年期の精神障害③…講義
11. 思春期・青年期の精神障害④…講義
12. 老年期の精神障害～認知症を中心に～…講義
13. パーソナリティ障害…講義
14. 神経症性障害…講義
15. リエゾン精神医学…講義
16. 筆記試験

【テキスト】

『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版』編集 上野武治 医学書院

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 筆記試験(100%)

科目区分：専門基礎	科目名：整形外科学Ⅰ	担当：非常勤講師
単位：1単位(30時間)	開講期：2年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

運動器の生理と病理および運動器疾患の診断と治療について、正確かつ実地医療に役立つ“生きた知識”を修得する。

【達成目標】

- ・整形外科の基礎科学を理解する。
- ・診断、治療、整形外科疾患についての総論を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・追試・再試は原則なし。

【授業計画】

1. 骨の構造、生理、生化学
2. 骨の発生、成長、維持
3. 骨の病態、病理
4. 骨の修復と再生
5. 関節の構造、生理、生化学と病態、病理
6. 関節軟骨の修復と再生
7. 筋・神経の構造、生理、化学
8. 痛みの基礎科学と臨床
9. 保存療法の基本/保存療法各論（運動器疾患のリハビリテーション/義肢）
10. 整形外科領域における手術の特徴/手術手技と手術法の基本/特殊な材料、器具を用いた手術法
11. 軟部組織・骨・関節の感染症
12. 関節リウマチとその類縁疾患
13. 慢性関節疾患（退行性、代謝性）
14. 四肢循環障害と阻血壊死性疾患
15. 先天性骨系統疾患/先天異常症候群

【テキスト】

『標準整形外科学 第15版』 監修 中村利孝/松野丈夫 編集 井樋栄二/吉川秀樹/津村弘
医学書院

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度 (5%)
2. 確認テスト (95%)

科目区分：専門基礎	科目名：整形外科学Ⅱ	担当：非常勤講師
単位：1 単位（30時間）	開講期：2年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

運動器の生理と病理および運動器疾患の診断と治療について、正確かつ実地診療に役立つ“生きた知識”を修得する。

【達成目標】

- ・整形外科の基礎科学を理解する。
- ・診断、治療、整形外科疾患についての各論を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・追試・再試は原則なし。

【授業計画】

1. 代謝性骨疾患
2. 骨腫瘍総論/骨腫瘍各論
3. 軟部腫瘍総論/軟部腫瘍各論
4. ロコモティブシンドローム
5. 肩関節の機能解剖/肩の診察・検査法/肩関節の疾患
6. 肘関節の機能解剖と診察・検査/肘関節の疾患
7. 手関節と手の機能解剖と診察・検査/疾患各論
8. 脊柱の機能解剖/頸椎の機能解剖/頸椎の診察・検査/頸椎疾患
9. 胸郭の機能解剖/胸郭および関連部位の疾患
10. 胸椎、腰椎の機能解剖/胸椎・腰椎の疾患
11. 股関節の機能解剖とバイオメカニクス/股関節の診察・検査/股関節の疾患/股関節の手術
12. 膝関節の機能解剖とバイオメカニクス/膝の診察・検査/膝関節の疾患
13. 足関節と足の機能解剖/足の診察・検査/足関節と足の疾患
14. 整形外科外傷学（外傷総論・軟部組織損傷・骨折・脱臼）
15. 脊椎・脊髄損傷

【テキスト】

『標準整形外科学 第15版』 監修：中村利孝/松野丈夫 編集：井樋栄二/吉川秀樹/津村弘
医学書院

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（5%）
2. 確認テスト（95%）

科目区分：専門基礎	科目名：リハビリテーション医学	担当：小林 誠
単位：1 単位（15時間）	開講期：2年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

医学や医療技術の進歩に伴って、私たちの寿命は飛躍的に伸びています。しかし、その一方で健康寿命との差は拡がり、命は助かったものの後遺症や慢性疾患のため思うように身体が動かせなくなり、以前の生活が著しく制限される方が増えています。

リハビリテーションという言葉は、“障害を受けた者を回復させる”という意味があり、その範囲は、身体的・精神的・社会的・職業的・経済的な能力を含んでいます。この中でリハビリテーション医学が対象とするのは、特に身体的側面に生じた障害の回復に関することです。

リハビリテーション医学がいかなる発展を遂げたかを理解し、他の臨床医学との違いを明確にすることがこの講座の目標である。

【達成目標】

- ・ ICFに示された機能障害、活動制限、参加制約と疾患・病気が結びつけられるようになる。
- ・ 疾患・障害の理解と治療対象や指導内容について、各専門職として自覚する。

【履修条件・注意事項】

- ・ リハビリテーションが、他職種連携協働で成り立っていること意識して受講すること
- ・ 患者や利用者の環境因子が多方面にわたるので、各授業の中で理解するよう。

【授業内容】

1. オリエンテーション：リハビリテーション医学・医療の概要
2. 機能障害の病態生理と回復過程
3. 合併症の病態生理
 廃用症候群、臓器の退行性変化 他
4. 各疾患の病態生理
 運動器疾患、中枢神経系疾患、難病 他
5. リハビリテーション治療学
 リハビリテーションの流れと目標、心理的アプローチ、リスク管理
6. ライフステージにおける障害特性
7. 高齢者のリハビリテーション
 サルコペニア、フレイル、老年症候群、心理精神面の特徴
8. 筆記試験

【テキスト】

【参考図書】

『学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版』	柏森 良二	医歯薬出版
『リハビリテーション医学テキスト 改訂第4版』	三上 真弘	南江堂
『リハビリテーション基礎医学』	上田 敏	医学書院
『最新リハビリテーション医学』	米本 恒三	医歯薬出版
『現代リハビリテーション医学』	千野 直一	金原出版

【成績評価】

1. 授業態度・参加度 (30%)
2. 確認試験 (70%)

科目区分：専門基礎	科目名：地域リハビリテーション学	担当：非常勤講師、吉村
単位：1単位（30時間）	開講期：2年（後期）	履修形態：必修
【授業の概要】		
地域で生活されている障害者（児）や高齢者を対象に展開されているリハビリテーションについて講義する。特に、授業では、専門職（理学作業、言語聴覚）以外の支援内容を重要視した。また、リハビリテーションに関わる専門職の具体的な講義を受けることで、自らの専門職としての役割性を明確にする（将来、どの領域で働くかという意識を持つ）。		
【達成目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状を理解する。 ・2040年問題について理解し、日本社会の進むべき道について述べることができる。 ・介護保険制度の理解と障害者総合支援制度を説明できる。 ・地域リハビリテーションにおける専門職の役割を理解し、説明できる。 <u>（リハビリとリハビリテーションの違いを説明できるようになる）</u> 		
【履修条件・注意事項】		
<ul style="list-style-type: none"> ・「所謂、リハビリ」から「リハビリテーション」へと意識変革するつもりで受講する。 ・非常勤講師からリハビリテーションの実際について講義を受けるので、授業態度に留意する。 		
【授業内容】		
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 高齢者・障害者を取り巻く保健医療福祉の現状 2. 2040年問題と日本の社会保障制度 3. 子ども高齢者、障害者の生活を支える仕組み（リハビリテーションについて） <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステム 多（他）職種連携協働と専門職 <ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員の役割 理学療法士の役割 作業療法士の役割 言語聴覚士の役割 在宅医療の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> 訪問診療、訪問看護 障害児教育 障害者等の就労支援 4. 障害者の生活を支える仕組みと専門職 <ul style="list-style-type: none"> 介護保険法と障害者総合支援法 この2つの法律制度の違い：サービス内容の違い 5. 筆記試験 		
【テキスト】		
特に定めない（適宜プリント配布）		
【参考図書】		
適宜紹介		
【成績評価】		
1. 授業態度・参加度（20%） 2. 確認試験（70%） 3. その他（10%）		

3 年 次

専 門 基 礎 科 目

- ◇ 救急医学
 - ◆ 作業療法概論
 - ◇ 脳神経外科学
 - ◆ 言語聴覚療法概論
 - ◇ 薬理学
 - ◆ 看護学概論
 - ◇ 栄養学
 - ◇ リハビリテーション工学
- (◆選択科目)

理学療法学科

科目区分：専門基礎	科目名：救急医学	担当：済生会総合病院
単位：1 単位（15時間）	開講期：3年（後期）	必修

【授業の概要】

私たちは、常に生死の境目で仕事を行っている医療職である。特に、リハビリテーション医療では、急性期・回復期・生活期のどの場面においてもリスク管理は重要であり、「救命救急」は必然である。

保健医療福祉に携わる専門職として、常に基本的な救急時の判断・対処法（処置）について熟知し、対応できる能力を周囲から求められている。「命」を守れない医療専門職として最低限の

の知識技術の習得を目的とする。

【到達目標】

- ・救命処置が必要になった時、素早く行動できる知識技術を持つ。
- ・医療の専門家として対応しなければならない、という意識を常日頃より持つ（緊急事態の際、逃げない、第3者にならない）。

【履修条件・注意事項】

- ・授業・実習など、常に緊張感をもって授業に臨むこと。
- ・「緊急事態」になった時、個々で対応できる能力は「経験が一番」と心得ること。

【授業計画】

1. 救急医学の概念と救急医療の基本
2. 救急診断と救急医療に必要な検査
意識障害、呼吸循環、画像検査 他
3. 救急処置と心肺蘇生法
4. 頻度の高い症状の診断と対処
5. 救急を要する病態とその初期治療
6. 災害時医療とトリアージ
在宅医療における救急対応
7. 救急処置の実際（実技）
8. トピックス
9. 試験

【テキスト】

『救急研修標準テキスト』

日本救命医学会 監修

医学書院

【参考図書】

【成績評価】

1. 授業態度・参加度（30%）
2. 筆記試験（70%）

科目区分：専門基礎	科目名：脳神経外科学	担当：梶原 浩司、柳原 博之 濱田 康弘、吉村 静馬
単位：1単位（15時間）	開講期：3年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

脳血管障害はリハビリテーション分野で最も関わる障害であり、その病態を知ることはリハビリ専門職の必須の要件である。近年、中枢神経系障害に対する治療技術の発展はめざましく、外科的な手術をはじめ、予防的な治療として脳血管内科という分野も確立している。リハビリテーションに携わるものとして、最新の知識・技術を学ぶことは、より効果的な治療を行う上で大切な要素である。

脳神経外科専門医の立場から、脳血管障害の原因、病態症状、合併症、治療と予後、リハビリテーションについての最新情報を得る。

講義を3年次の臨床実習Ⅰ前後に分け、基礎と臨床を分かりやすく解説する。

【達成目標】

- ・中枢神経系の機能局在を理解する。
- ・脳血管障害の病態障害と症状を理解する。
- ・脳腫瘍の病態と症状を理解する。
- ・脳神経外科学の手術と適応について理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・2年次の解剖学、神経内科学の再確認の授業であり、復習して授業に臨むように。
- ・理学療法士/作業療法士/言語聴覚士の専門領域での知識の再認識を行う。
- ・脳神経外科領域の専門用語を理解する。

【授業計画】

- ①中枢神経系の解剖生理と機能局在
- ②神経学的主要症候と画像（CT、MRI 他）
- ③脳血管障害等について（病巣と障害）
 - 脳梗塞
 - 脳出血
 - クモ膜下出血
- ④脳腫瘍 他
- ⑤予防と脳神経外科的治療（内科的治療を含む）
- ⑥合併症、脳神経外科医からみた予後
- ⑦リハビリテーションとリスク管理
- ⑧試験
 - ①②は、吉村が担当。
 - ③～⑦は、宇部西リハビリテーション病院と山口赤十字病院の脳神経外科医が担当。

※ 開講時期：前半（9月～10月初）、後半（翌年 2月）

【テキスト】

『病気がみえる vol.7 脳・神経』

MEDIC MEDIA

【参考図書】

『目で見る神経内科学』

平井 俊策

医歯薬出版

【授業方法】

1. 授業態度 (20%)
2. 筆記試験：基礎編・臨床編（非常勤分） 80%

科目区分：専門基礎	科目名：薬理学	担当：非常勤講師
単位：1 単位（15時間）	開講期：3年（前期）	必修

【授業の概要】

薬物がヒトの身体にどのように作用をして疾病の治療に寄与するか、また、ヒトの身体が薬物にどのように反応するか、また薬物を使用して起きることが予測される副作用について学習し、「科学的根拠に基づいた治療」が理解できるように薬理学を学ぶ。限られた時間内で全てを網羅できないが、必要最小限のことを講義する。

【達成目標】

- ・リハビリテーションの領域で用いられる薬についての知識を持つ。
- ・薬の効能と副作用についての知識を持つ。

【履修条件・注意事項】

- ・臨床実習直前の授業です。興味をもって望んでくれることを期待します。

【授業内容】

1. 薬理学総論
2. 末梢神経系、中枢神経系作用薬
3. 心臓病血管作用薬
4. 抗炎症薬、呼吸器系作用薬
5. 消化器系、ホルモン系、生殖器系作用薬
6. 抗感染薬、抗悪性腫瘍薬
7. 漢方薬総論
8. 試験

【テキスト】

『わかりやすい薬理学』 安原 一／小口 勝司 広川書店

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度 (30%)
2. 確認試験 (70%)

科目区分：専門基礎	科目名：栄養学	担当：非常勤講師
単位：1 単位(15時間)	開講期：3年（後期）	履修形態：必修
【授業の概要】		
近年、栄養問題は、かつての食料不足による単純な欠乏症に代わって、生活環境やライフスタイルの変遷に伴って新たな問題を生じている。また、リハビリテーションの観点から低栄養によって体力低下、病気の回復力の低下、さらにはQOLの低下などの問題も生じている。		
専門職として、栄養とは、生物が活動、成長、増殖していくために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象であり、幅広い分野について学習し、理解することを到達目標にする。		
【達成目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きについて理解する ・栄養状態の評価・判定を理解し、概要を述べることが出来る。 ・リハビリテーションと栄養との関連性を理解する。 		
【履修条件・注意事項】		
<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の生理学の復習をしながら、授業に臨むこと。 ・教科書にて授業内容を振り返ること。 		
【授業計画】		
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 「栄養学」とは何か 2. 疾病と食生活実態 3. 栄養状態の評価・判定 食事摂取基準と欠乏症 4. 栄養ケア・マネジメント 5. ライフステージと栄養 6. 疾患別食事療法の実際 7. 健康づくりと食生活 生活習慣病とリハビリテーション 8. 筆記試験 		
【テキスト】		
『系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学』 小野 章史 医学書院		
【参考図書】		
【成績評価】		
1. 授業態度 (20%) 2. 筆記試験 (80%)		

科目区分： 専門基礎	科目名：リハビリテーション工学	担当：非常勤
単 位：1 単位（30時間）	開講期：3年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

ADL・社会生活行為の支援活動乗一つである福祉用具、補装具について体験を通じ学ぶ。障害者や高齢者が自立生活を営むために必要な福祉用具、補装具、生活環境のあり方について学び、リハビリテーション専門職種としての役割、多職種との連携について理解を深める。

【達成目標】

- ・ 福祉用具・補装具支援の基本理念、制度を理解する。
- ・ 姿勢保持の基礎と快適な姿勢保持の条件を理解する。
- ・ 姿勢保持のための支援方法とその目的を理解する。
- ・ コミュニケーション支援と生活環境との関係、支援用具の操作方法を理解する。
- ・ コミュニケーション支援のための自助具の製作方法を習得する。
- ・ 住環境整備についての基本と支援方法について理解する。
- ・ 移乗・移動に関する用具と生活環境整備について理解する。
- ・ 福祉用具・補装具支援における理学療法士作業療法士の役割、多職種との連携について理解する。

【授業計画】 ※講義の順序は変更される場合があります。

1. テクノエイド論…講義
2. 姿勢保持の基礎…講義、演習
3. ~4. クッショーンの製作実習①②…演習
5. ~6. コミュニケーション論①②…講義・演習
7. ~8. ITを利用した生活支援①②…講義・演習
9. ~12. 生活環境整備について①②③④…講義、演習
13. ~16. 移乗・移動に関する用具と環境調整①②③④…講義、演習

【テキスト】

配布資料

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 課題レポート（100%）

科目区分：専門基礎	科目名：作業療法概論	担当：大田 茂臣
単位：1単位（15時間）	開講期：3年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

- ・リハビリテーションに携わる専門職として、作業療法の実践領域やその内容について理解を深める。
- ・各療法との接点やその専門性の違いについて考える。

【達成目標】

- ・作業療法の基本概念について理解できる。
- ・作業療法の実践領域や業務内容について理解できる。
- ・作業活動の体験を通じて、作業の意味について理解する。
- ・専攻する療法との接点やその専門性の違いについて考察できる。

【履修条件・注意事項】

- ・課題点は、ワークシートの内容を採点に反映する。
- ・資料映像に基づいた討議の際は、活発な意見交流及び感想を望む。

【授業計画】

1. オリエンテーション、作業療法・作業療法士とは（定義・実施領域・業務内容）
2. 作業療法の「作業」について（作業とは・作業に根差した実践）
3. 身体障害領域での関わり（急性期・回復期リハビリテーションにおける作業療法）
4. 精神障害領域での関わり（精神疾患について・精神科作業療法）
5. 地域での関わり（通所・訪問・就労支援事業における作業療法）
6. 作業活動の体験
7. 体験した作業について振り返る 作業分析の体験
8. 試験

【テキスト】

適宜資料を配布する

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度 (10%)
2. 課題 (30%)
3. 筆記試験 (60%)

科目区分：専門基礎	科目名：言語聴覚療法概論	担当：正司真規
単位：1 単位(15時間)	開講期：3年(前期)	履修形態： 必修(OT)、選択(PT)

【授業の概要】

言語聴覚療法の対象と内容を知り、言語聴覚障害および言語聴覚士についての理解を深める

【達成目標】

- ・言語聴覚療法の基本概念について理解できる
- ・言語聴覚士の対象者と業務内容について理解できる

【履修条件・注意事項】

毎回パワーポイントを使用して授業します。マイクを使用します。

【授業計画】

- 1 言語聴覚療法・言語聴覚士とは
- 2 摂食・嚥下障害
- 3 成人言語・認知
- 4 発声・発語
- 5 小児言語・認知
- 6 聴覚
- 7 まとめ
- 8 試験

【テキスト】

資料等を配布する

【参考図書】

『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』 藤田ら 医学書院

【成績評価】

試験(100%)

科目区分:専門基礎	科目名:看護学概論	担当:佐藤 美幸
単位: 1単位 (15時間)	開講期: 3年 (後期)	履修形態: 選択

【授業の概要】

看護について理解するため、定義や役割、機能について概説する。

また、医療現場や他職種連携の場面において看護職の果たす役割について、事例や演習を通して理解を深める。

【達成目標】

- 1) 看護とはなにか、看護職の対象の捉え方について知る。
- 2) 看護の提供のしくみや教育からその役割について知る。
- 3) 看護の機能と役割の理解し、それぞれの立場と看護職との他職種連携のあり方について考察できる。

【履修条件・注意事項】

- ・コメディカルスタッフの1員としての看護職者について学ぶことから、それぞれの立場との連携をとっていく上での他職種との連携を考えていただければと思います。
- ・授業に集中するため、私語厳禁、携帯電話の使用等は禁止させていただきます。

【授業計画】

1. オリエンテーション
看護とは 講義
2. 看護の対象の理解 講義
3. 国民の健康・生活の全体像の把握 講義
4. 看護の提供者 講義
5. 看護における倫理 講義・演習
6. 看護の提供のしくみ 講義・演習
7. 広がる看護の活動領域 講義
8. 試験

【テキスト】

茂野香おる他著『系統看護学講座 専門分野I 看護学概論』第17版 医学書院 2020

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度・参加度 (10%)
2. 演習課題(20%)
3. 最終試験 (70%)

4 年 次

専 門 基 礎 科 目

◇ 栄養学

理学療法学科

科目区分：専門基礎	科目名：栄養学	担当：非常勤講師
単位：1 単位(15時間)	開講期：4年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

近年、栄養問題は、かつての食料不足による単純な欠乏症に代わって、生活環境やライフスタイルの変遷に伴って新たな問題を生じている。また、リハビリテーションの観点から低栄養によって体力低下、病気の回復力の低下、さらにはQOLの低下などの問題も生じている。

専門職として、栄養とは、生物が活動、成長、増殖していくために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象であり、幅広い分野について学習し、理解することを到達目標にする。

【達成目標】

- ・栄養素の種類と働きについて理解する
- ・栄養状態の評価・判定を理解し、概要を述べることが出来る。
- ・リハビリテーションと栄養との関連性を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・1年次の生理学の復習をしながら、授業に臨むこと。
- ・教科書にて授業内容を振り返ること。

【授業計画】

1. オリエンテーション 「栄養学」とは何か
2. 疾病と食生活実態
3. 栄養状態の評価・判定
食事摂取基準と欠乏症
4. 栄養ケア・マネジメント
5. ライフステージと栄養
6. 疾患別食事療法の実際
7. 健康づくりと食生活
生活習慣病とリハビリテーション
8. 筆記試験

【テキスト】

『系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学』 小野 章史 医学書院

【参考図書】

【成績評価】

1. 授業態度 (20%)
2. 筆記試験 (80%)

専門科目

理学療法学科

1 年 次

専 門 科 目

- ◇ 理学療法概論 I
- ◇ 理学療法概論 II
- ◇ 基礎理学療法学 I
- ◇ リハビリテーションセミナー
- ◇ 理学療法セミナー I
- ◇ 理学療法評価学 I
- ◇ 理学療法治療学 V

理学療法学科

科目区分：専門	科目名：理学療法概論 I	担当：村上 博子
単位：1単位（30時間）	開講期：1年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

医療とリハビリテーション、理学療法の関連を理解するとともに、理学療法士について、歴史・法律と業務の概略を知る。

【達成目標】

- ・医療・保健・福祉における理学療法の役割を理解する。
- ・理学療法士及び作業療法士法を中心に関係法規を理解する。
- ・理学療法の内容を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業の後半は、グループでの活動になるので自分勝手な行動は慎み、協調性を持って授業に臨むこと。

【授業計画】

1. オリエンテーション
医療とリハビリテーション①・・・講義
2. 医療とリハビリテーション②・・・講義、演習
3. リハビリテーションにおける理学療法の役割・・・講義
4. 理学療法と倫理・哲学①・・・講義、演習
5. 理学療法士としての適性・・・講義、演習
6. 理学療法の歴史・・・講義
7. 理学療法士の法律制度・・・講義
8. 理学療法の流れ①・・・講義
9. 理学療法の流れ②・・・講義
10. 理学療法の対象：総論・・・講義
11. 理学療法の対象：廃用症候群・・・講義
11. " 講義&演習
12. " 演習・発表
13. 理学療法の対象：各分野①・・・講義
14. " 各分野②・・・講義
15. " まとめ
16. 試験

【テキスト】

『理学療法概論 第7版』

奈良 黜 他編著

医歯薬出版

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 演習課題（20%）
3. グループ課題（20%）
4. 確認テスト（40%）

科目区分：専門	科目名：理学療法概論Ⅱ	担当：村上 博子
単 位：1 単位（30時間）	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

“広い視野を持った 誠実な 医療の専門家を目指して”、これに応えることができる理学療法士になるために必要なことは何かを考える。

リハビリテーション理念を踏まえ、治療者としての理学療法士に必要な基礎に立ち返り、そこから理学療法を概観する。また、これから医療・保健・福祉領域での理学療法士の役割と、「求められる理学療法士」について示唆する。

【達成目標】

- ・1年次は、病気や怪我から引き起こされる障害像に着目し、理学療法の目的と方法を理解する。
- ・医療・保健・福祉における理学療法士の役割を理解する。理学療法士及び作業療法士法を中心に関係法規を理解する。
- ・理学療法の内容を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業の後半は、グループでの活動になるので自分勝手な行動は慎み、協調性を持って授業に臨むこと。

【授業計画】

1. オリエンテーション、リハビリテーションと理学療法
2. ICFとICIDHについて
3. 障害学総論
4. 障害体験①：関節可動障害とADLについて
5. 運動機能障害と理学療法
6. 神経機能障害と理学療法
7. 循環機能障害と理学療法
8. 感覚障害と理学療法
9. 障害体験②：関節可動障害の影響を客観的捉える
10. 理学療法におけるADL
11. 痛みと理学療法
12. 演習：物理療法体験
13. 理学療法士の職域～保健・医療・福祉～
14. 理学療法士の安全管理
15. まとめ
16. 試験

【テキスト】

『理学療法概論 第7版』 奈良 勲 他編著 医歯薬出版

『リハビリテーションビジュアルブック 第2版』 落合・稻川

学研

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 演習課題（20%）
3. グループ課題（20%）
4. 確認テスト（40%）

科目区分:専門	科目名 : 基礎理学療法学I	担当 : 國安 正志
単 位:1単位(30時間)	開講期 : 1年 (後期)	履修形態 : 必修

【授業の概要】

物理学(主に熱力学、流体力学、波動・振動論、電磁気学)の基本的な内容から医療現場における応用まで、初めて物理を学ぶ学生でも理解できるように講義する。

【達成目標】

- ・様々な物理現象を学習し、具体的な計算手法を理解する。
- ・物理現象の医療現場における応用例を学習する。
- ・物理学を学習することで、論理的な考え方を身に付ける。

【履修条件・注意事項】

本授業では、初学者にとって難解な物理現象を取り扱う。従って各自事前の予習や、授業後の復習を充分に行うこと。自主性を持って学習に取り組むこと。

【授業計画】

1. 热力学 (1)
2. 热力学 (2)
3. 热力学 (3)
4. 気体の圧力について
5. 波動・振動論 (1)
6. 波動・振動論 (2)
7. 波動・振動論 (3)
8. 波動・振動論 (4)
9. 超音波について
10. 電磁気学 (1)
11. 電磁気学 (2)
12. 電磁気学 (3)
13. 電磁気学 (4)
14. 電磁波について
15. 総復習
16. 試験

【テキスト】

『Newベッドサイドを科学する 一看護に生かす物理学一』 平田 雅子 著 学研

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度(15%)
2. 期末試験(85%)

科目区分：専門	科目名：リハビリテーションセミナー	担当：村上 博子 吉村 静馬 他
単位：1単位（45時間）	開講期：1年（前期）	授業形態：必修

【授業の概要】

DVD の視聴や当事者の体験談、病院施設見学などを通して、医療とは何か、リハビリテーションとは何かを考える。そのねらいは、登場する主人公や家族の気持ちに寄り添えるような感性豊かな医療人になって欲しいという願いを込めて授業を組み立てた。

この授業は、「優しさを伝えられる人」「相手の立場に立って考えられる人」、そういう専門職を育てる入口であり、そこから医療職としての専門性に気づいてくれることを願う。

【達成目標】

- ・「生きる」「生活する」とは何かを考える。
- ・自宅で生活されている障害者に必要なリハビリテーションサービスを考える。

【履修条件・注意事項】

- ・他の科目（リハビリテーション概論、理学療法概論Ⅰ・Ⅱ）との繋がりを意識し、演習に望むこと。
- ・医療人を目指す者としての「心構え」をしっかりと持つこと。

【授業計画】

1. オリエンテーション
4年間の養成教育カリキュラムについて
「誠実な医療の専門家を目指して」の意味を考える
ボランティアについて 他
2. 脊髄損傷患者のリハビリテーション
当事者と家族の望む生活を考える。
・DVD「ウイニング・パス」の観聴
3. リハビリテーションの具体的な流れを知る。
・治る病気、治らない病気、進行性の病気とリハビリテーション
4. 病院見学
・急性期回復期維持期における専門職の役割を知る。
5. ICF（国際生活機能分類）とリハビリテーション、専門職の役割
保健医療福祉と専門性
6. 4年先を夢見る。
授業を通して、将来の自分を想像できるようになる
7. まとめ

【テキスト】

『生きて、生きて、生き抜いて』 安藤 徳彦 著 講談社エディトリアル
『リハビリテーション概論 改訂第4版』 田島 文博 編著 永井書店

【参考図書】

【成績評価】

1. 授業態度・参加度（60%）
2. 課題レポート（30%）
3. その他（10%）

科目区分：専門	科目名：理学療法セミナーI	担当：尾畠・楫野
単位：1単位(30時間)	開講期：1年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

理学療法士を目指すには、必要な知識・技術を基本から修得しなければならないことをがいくつかある。そこで、この講座ではそのために求められる基礎スキルのアップを目指し、様々な学習や体験の機会を与える。

【達成目標】

- ・社会人としての基礎（言葉遣い、学力等）を身に付ける。
- ・理学療法に必要な基礎知識（解剖・生理）を復習する。

【履修条件・注意事項】

- ・入学前学習の復習とともに、様々な個人作業を行うので、授業中の不適切な態度は厳しく対応する。
- ・高校の教科書を参考に使用するなど、個々で工夫することを望む。

【授業計画】

- | | |
|----------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1. オリエンテーション | 1コマ 担当 極野 |
| 2. 語彙・読解等の基礎プログラム（日本語検定）
①②敬語、ロールプレイ ③文法 ④語彙・言葉の意味 ⑥漢字・表記
⑦まとめ | 7コマ 担当 尾畠 |
| 3. 入学前教育プログラムのまとめ | 7コマ 担当 極野 |

【テキスト】

『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』

名古屋大学日本語研究会 東京書籍

『入学前教育プログラム 理学療法科・作業療法科コース 総合テキスト』

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 授業態度 (20%) | 2. 演習課題 (80%) |
|---------------|---------------|

科目区分：専門	科目名：理学療法評価学Ⅰ	担当：前田・楫野
単位：1単位(30時間)	開講期：1年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

検査測定(形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法)の目的を理解し、解剖学・運動学をもとに各測定の正確な実施及びその記録が出来る。

【達成目標】

解剖学・運動学をもとに各測定の正確な実施及びその記録が出来る。

【履修条件・注意事項】

- ・授業は実習を含みます。実習時には実習着を着用し、身だしなみに注意する事。
- ・授業の内容は知識だけでなく、実技演習も多く実施するので積極的に取り組む事。

【授業計画】

1. 理学療法評価総論①：理学療法の流れと評価の位置づけ(担当：楫野)
2. " ②：検査測定と評価(担当：楫野)
3. " ③：理学療法の記録(担当：楫野)
4. 身長・体重・体格指数・皮下脂肪・頭囲・胸囲・腹囲・座高・指極
各測定意義と実際の測定(担当：楫野)
5. 四肢長・四肢周径の測定(担当：楫野)
6. 肩甲帯・肩関節の可動域測定(担当：前田)
7. 肘・前腕・手関節・手指の可動域測定(担当：前田)
8. 股関節・膝関節の関節可動域測定(担当：前田)
9. 足関節・足部・足指の関節可動域測定(担当：前田)
10. 徒手筋力検査法について・頸部・体幹の徒手筋力測定(担当：前田)
11. 肩甲帯・肩関節の徒手筋力測定(担当：前田)
12. 肘・前腕・手関節・手指の徒手筋力検査法(担当：前田)
13. 股関節・膝関節の徒手筋力検査法(担当：前田)
14. 足関節・足指の徒手筋力検査法(担当：前田)
15. 脳神経の徒手筋力測定(担当：前田)

【テキスト】

『理学療法評価学 第6版補訂版』 松澤 正・江口 勝彦 金原出版
 『新・徒手筋力検査法 原著第10版』 津山 直一訳 共同医書出版社

【参考図書】

『ボディーナビゲーション』 Andrew Biel 医道の日本社

【成績評価】

1. 授業態度(20%)
2. 実技試験(40%)
3. 筆記試験(40%) *筆記試験は、総論と測定法と2回に分けて行います。

科目区分：専門	科目名：理学療法治療学V	担当：尾畠、末繁
単位：2単位（60時間）	開講期：1年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

「日常生活」を理学療法士の視点から捉えていく。基本動作を理解し、日常生活活動を支える機器や用具を知る。またセルフケアから生活関連動作へのつながりを理解する。

【達成目標】

日常生活に必要な活動を理解し、動作介助の基本を習得する。

評価方法、福祉用具の種類、義肢装具の特徴を知る。

「障害を持ち生活をおくる」ことを経験する。

【履修条件・注意事項】

実習が多くなりますので身だしなみ（髪、爪、服装等）に留意してください。

【授業計画】

1. オリエンテーション ADLの歴史

2. ADLの概念と範囲

3. ADLとIADL動作 セルフケア、手段的ADLとは

4～7. ADLの評価方法

FIM、Barthel index、Lawton、PULSES、Katz、老研式等

8～14. 基本動作と介助方法…実技を中心に

寝返り～立位～歩行（杖の処方も含む）

15. 視覚障害

※1～15 尾畠

16～20. 義肢装具について

総論、義肢、装具（各上下肢・体幹）等

21～24. 福祉用具について

福祉用具概念、補装具、日常生活用具、自助具等

25～30. 車椅子について

車椅子種類、採寸方法、シーティング等

※16～30 末繁

数字は授業回

【テキスト】

『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』 奈良 勲 医学書院

【参考図書】

『リハビリテーションビジュアルブック』 第2版 学研

【成績評価】

1. 答記試験（60%） 2. 実技試験（20%） 3. 課題（20%）

2 年 次

専 門 科 目

- | | |
|-------------|------------|
| ◇ 理学療法概論Ⅲ | ◇ 理学療法治療学Ⅱ |
| ◇ 基礎理学療法学Ⅱ | ◇ 理学療法治療学Ⅲ |
| ◇ 理学療法セミナーⅡ | ◇ 義肢装具学総論 |
| ◇ 理学療法評価学Ⅱ | ◇ 生活環境論 |
| ◇ 理学療法評価学Ⅲ | ◇ 臨床基礎実習 |
| ◇ 理学療法治療学Ⅰ | |

科目区分：専門	科目名：理学療法概論Ⅲ	担当：村上 博子 他
単位：1単位（30時間）	開講期：2年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

1年次に学んだ解剖・生理・運動学と2年次で学ぶ臨床医学の結びつきを理解し
リハビリテーション・理学療法の果たす役割を理解する。

【達成目標】

- ・臨床症状・疾患に関連する基礎知識を整理する。
- ・理学療法の内容を分野ごとに理解する。
- ・基本的な理学療法の手順を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業の後半は、グループでの活動になるので自分勝手な行動は慎み、協調性を持って授業に臨むこと。

【授業計画】

1. オリエンテーション
理学療法の流れ・・・講義
ICFとICIDH・・・講義、演習
2. 運動器障害の理学療法・・・講義、演習
3. 脳卒中の理学療法（急性期・回復期・維持期）・・・講義、演習
4. 神経難病の理学療法・・・講義、演習
5. 脊髄損傷の理学療法・・・講義、演習
6. 内部障害の理学療法・・・講義、演習
7. まとめ
8. 認知症のリハビリテーション・理学療法①（特別講義）
9. 認知症のリハビリテーション・理学療法②（特別講義・演習）

【テキスト】

『リハビリテーションビジュアルブック 第2版』 落合・稻川 学研

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 演習課題（40%）
3. 確認テスト（40%）

科目区分：専門	科目名：基礎理学療法学Ⅱ	担当：山崎・尾畠・村上
単位：1単位(30時間)	開講期：2年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

理学療法の場面で見られる事柄を科学的に捉え、応用ができるようになるために理学療法に必要な知識を学ぶ。
障がい者のスポーツ活動について学ぶ。

【達成目標】

- ・動作分析に必要な基礎知識を習得する。
- ・基本動作を筋活動の視点から理解する。
- ・障がい者スポーツ指導者制度と活動の内容を知る。

【履修条件・注意事項】

- ・開講日は固定していないため、確認すること。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 動作分析の基礎・・・講義 10月～11月開講 8コマ 担当 山崎
3. 動作分析の実際（筋活動の観察） 11月～1月開講 5コマ 担当 村上
4. 障がい者スポーツ 1月開講 担当 尾畠
 - ①全国障害者スポーツ大会の概要 1コマ
 - ②公認パラスポーツ指導者制度と地域における活動について 1コマ
5. トピックス

【テキスト】

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度(20%)
2. 演習課題(40%)
3. 筆記試験(40%)

科目区分：専門	科目名：理学療法セミナーⅡ	担当：理学療法教官
単位：1単位（30時間）	開講期：2年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

理学療法の基礎となる知識・技術の習得と理学療法士に求められる一般知識・社会的知識（社会人基礎力・一般常識など）の向上を目指す。

【達成目標】

- ・理学療法の基礎となる知識・技術を習得する。
- ・理学療法士として、患者様と接するうえで必要な接遇やマナーを理解する。
- ・2年次前期までに習得した技術（トランスファー・検査測定など）を模倣実施する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業内容は知識だけでなく、実技演習も多く実施するので積極的に取り組むこと。

【授業内容】

1. オリエンテーション、接遇・マナーについて
2. 解剖実習見学に向けて①
3. 解剖実習見学に向けて②
4. 解剖実習見学に向けて③
5. 解剖実習見学に向けて④
6. 解剖実習見学①
7. 解剖実習見学②
8. 問診(医療面接)・診療記録の書き方
9. 起居・移乗動作・車椅子操作の復習①
10. 起居・移乗動作・車椅子操作の復習②
11. 検査測定の復習(形態測定)
12. 検査測定の復習(関節可動域測定)
13. 検査測定の復習（MMT）
14. 検査測定の復習(反射、知覚検査)
15. 検査測定の復習(その他)

【テキスト】

- | | | |
|-------------------------|----------------|------|
| 『理学療法評価学 第6版補訂版』 | 松澤 正 | 金原出版 |
| 『プロメテウス 解剖学アトラス 第3版』 | 坂井 健雄・松村 讓兒 監修 | 医学書院 |
| 『PTOTのための臨床技能とOSCE 第2版』 | 齊藤 栄一 | 金原出版 |

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

- | | | | |
|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| 1. 筆記等の試験 (60%) | 2. 課題 (20%) | 3. 実技 (10%) | 4. 授業態度 (10%) |
|-----------------|-------------|-------------|---------------|

科目区分：専門	科目名：理学療法評価学Ⅱ	担当：尾畠・吉富
単位：1単位（30時間）	開講期：2年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

神経系分野の疾患や症状の理解には神経解剖生理の知識が必要となる。基礎知識を確認しながら、神経系疾患に用いる各種検査方法とその検査の持つ意味を理解する。

【達成目標】

脳と神経の基礎知識を理解したうえで、神経系障害理学療法分野での神経系評価の重要性を理解し、その検査方法を習得する。

【履修条件・注意事項】

授業は実習を含むため、身だしなみ（頭髪・爪・アクセサリー等）に注意すること。

【授業計画】

1. 中枢神経と末梢神経
2. 脳の機能解剖生理（大脳・小脳・脳幹）と障害、意識の評価
3. 大脳の機能解剖生理と障害、脳画像評価のための基礎知識
4. 錐体路の機能解剖生理と障害、中枢性麻痺の回復過程
5. 脳神経の機能解剖生理と障害
6. 錐体外路の機能解剖生理と障害
7. 感覚伝導路と障害
8. 脳神経検査①
9. 脳神経検査②
10. 腱反射検査、病的反射検査、筋緊張検査①
11. 腱反射検査、病的反射検査、筋緊張検査②
12. 感覚検査
13. 片麻痺運動機能検査
14. 協調性検査
15. バランス検査

※8～15については、実技を含む。

【テキスト】

『病気がみえる⑦ 脳・神経』

『理学療法評価学』

松澤 正

MEDIC MEDIA

金原出版

【参考図書】

『ベッドサイドの神経の診かた』

田崎 義昭 他

南山堂

【成績評価】

1. 筆記試験（50%）
2. 実技試験（50%）

科目区分：専門	科目名：理学療法評価学Ⅲ	担当：村上 博子 吉村 静馬
単位：1単位（30時間）	開講期：2年（後期）	授業形態：必修

【授業の概要】

- ・1年次に学んだ解剖生理運動学を基盤に理学療法に必要な検査測定の原理と方法を理解し、実際の臨床でどのように評価を行うか学ぶ。
- ・この評価学Ⅲでは、内部障害（呼吸機能）と小児領域（乳幼児の発達）について学ぶ。

【達成目標】

＜内部障害＞ 村上担当

- ・呼吸機能を説明できる。
- ・気球機能に関する検査測定の意義と方法を説明できる。
- ・呼吸器疾患の病理を理解し、問題点について札名できる。

＜小児領域＞ 吉村担当

- ・生まれてからの精神運動発達の道筋を説明できる
- ・乳幼児の発達評価（神経系の発達、運動発達 他）の検査が実施出来る
反射検査、運動発達検査、精神発達検査、遠城寺式分析的発達検査 他
- ・発達検査の結果から運動発達の異常（遅滞）の原因を早期することができる。

【履修条件・注意事項】

- ・分野で開講スケジュールが異なるので、確認すること。
- ・講義と実習が同時に行われることがあるので、実習着の用意をしておくこと。

【授業計画】

＜内部障害＞

1. 呼吸障害と呼吸リハについて
2. 呼吸機能について：解剖生理の復習
3. 呼吸障害について①：病態の理解
4. " ②：評価（呼吸機能）
5. " ③：評価（呼吸機能）
6. " ④：運動機能評価
7. " ⑤：日常生活機能
8. 試験（実技・筆記）

＜小児領域＞

1. オリエンテーション 小児保健の振り返り。
2. 姿勢反射検査
3. 遠城寺式分析的発達検査
4. 運動発達 その1
5. 運動発達 その2
6. 姿勢・動作の観察
7. 子どもの評価 運動発達評価
8. 期末試験（実技試験&筆記試験）

【テキスト】

『理学療法評価学』

松澤 正

金原出版

『小児理学療法学テキスト 改定第3版』

田原 弘幸 他

南江堂

『最新理学療法講座 内部障害理学療法学』 高橋 哲也 他

医歯薬出版

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度・参加度（20%）
2. 確認試験（80%）

科目区分：専門	科目名：理学療法治療学Ⅰ	担当：前田・楫野 吉村・村上
単位：2単位(60時間)	開講期：2年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

物理学、基礎理学療法Ⅰで学んだ基礎知識を生かし、物理療法の原理を理解する。また、体育理論、運動学で学んだ基礎知識を生かし、運動療法の理論を理解し、基本技術を習得する。

【達成目標】

- 各種物理療法について機器の原理・適応・禁忌・方法を説明できるようになる。
- 理学療法に必要な基礎知識（解剖・生理等）を復習する。
- 水治運動療法の生理学的作用を確認・理解する。
- 運動の仕組みについて、力学を中心に理解する。
- 運動療法の基本手技が実施できるようになる。

【履修条件・注意事項】

- 1年次に学んだ解剖生理学、体育理論や物理学、評価学、日常生活活動学等を基盤とした学習になるので、予習や復習を大事にしてください。
- 実技などは、必ず実習着で参加してください。

【授業計画】

<物理療法>	<運動療法>
前田担当 (6コマ)	前田担当 (8コマ)
1. 総論	1. 総論
2. 溫熱療法	2. 運動学の基礎知識
3. 寒冷療法	3. 基本的動作能力の低下 (寝返り・起き上がり、立ち上がり・歩行)
4. 衝撃波療法	
5. 牽引療法	楫野担当 (7コマ)
6. 間欠的圧迫療法	1. 関節可動域制限
楫野担当 (6コマ)	2. 筋力低下
7. 電気刺激療法	3. バランス能力の低下
8. 水治療法	
9. 光線療法	
10. バイオフィードバック療法	
11. ロボット療法	
吉村担当 (2コマ)	
12. 水治運動療法	
まとめ (1コマ)	

【テキスト】

- 『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 改定第3版』 細田 多穂 南江堂
 『障害別 運動療法学の基礎と臨床実践』 木村 貞治 他 金原出版

【参考図書】

- 『動作練習 動作メカニズムの再獲得と統合』 石井 慎一郎 メジカルレビュー社
 『関節可動域制限 第2版 病態の理解と治療の考え方』 沖田 実 三輪書店

【成績評価】

1. 筆記試験 (80%) 2. 授業態度 (20%)

科目区分：専門	科目名：理学療法治療学Ⅱ	担当：前田・楫野 吉村・村上
単位：2単位(60時間)	開講期：2年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

理学療法治療学Ⅰ（物理療法総論）で学んだ基礎知識を生かし、物理療法の治療操作を習得し、いろいろな物理刺激が生体にどのような反応を起こすのかを検証する。また、理学療法治療学Ⅰ（運動療法）で学んだ基礎知識を生かし、運動器障害を中心にその理学療法について学ぶ。

【達成目標】

- ・各種物理療法について理解し、学生同士で実施できる。
- ・実習で利用する機器の使用方法および適切な設定を説明できる。
- ・水治運動療法の特徴を理解し、学生同士で実施できる。
- ・運動器疾患に対する理学療法の目的を理解し、評価ができる。
- ・運動器障害に対する理学療法プログラムを理解し、実施できる。
- ・運動器疾患の治療におけるリスク管理を理解できる。

【履修条件・注意事項】

- ・後期開始時に水治運動療法の学外実習を行う。水着、水泳帽、ゴーグル等を準備する。
- ・実技などは、必ず実習着で参加してください。

【授業計画】

<物理療法実習>

1. オリエンテーション（前田担当：1コマ）

吉村・村上担当（6コマ）

2. 水治運動療法

学外実習後は、測定結果についての
グループワーク・発表を行う。

前田担当（4コマ）

3. 温熱療法（超短波、極超短波、超音波）

4. 牽引療法

楫野担当（4コマ）

5. 水治療法

6. 電気刺激療法

<運動器障害理学療法学>

前田担当（8コマ）

1. 総論

2. 腰椎椎間板ヘルニア

3. 脊柱管狭窄症

4. 变形性股関節症

5. 变形性膝関節症

6. 肩関節周囲炎

楫野担当（7コマ）

1. 高齢者の骨折

2. 大腿骨頸部・転子部骨折

3. THA

4. TKA

【テキスト】

『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 改定第3版』 細田 多穂 南江堂

『ここがポイント 整形外科疾患の理学療法 第3版』 富士 武史 他 金原出版

『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版』 坂井 建雄 他 医学書院

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 筆記試験（60%）
2. 演習発表・レポート（30%）
3. 授業態度（10%）

科目区分：専門	科目名：理学療法治療学Ⅲ	担当：尾畠・吉富
単位：2単位(60時間)	開講期：2年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

この授業では脳卒中と神経難病の病態から評価・治療までを学習する。

- ① 脳卒中の病態と障害像を理解したうえで、脳卒中片麻痺に対するリスク管理・予後予測・評価・治療(ADL練習、装具療法含む)について学習を深める。
- ② 神経難病疾患に対する理学療法を学ぶ。進行性の疾患であり、筋力低下、筋緊張異常、運動失調、不随意運動など様々な運動機能障害を呈する。残存機能や代償動作を考えながら、理学療法評価や運動療法を進めていく。

【達成目標】

各疾患の病態、障害像を踏まえながら、リスク管理、評価、治療プログラムを理解する。

【履修条件・注意事項】

課題を提出すること。実技については、医療従事者としてふさわしい身なり・態度で臨むこと。

【授業計画】

○脳卒中について

- 1. 脳卒中の病態と治療・脳画像評価
 - ①脳梗塞 ②③脳出血 ④クモ膜下出血
- 2. 脳卒中の障害像
 - ⑤一次障害と二次障害
- 3. 脳卒中片麻痺に対する治療までの流れ
 - ⑥情報収集・リスク管理・中止基準・予後予測
- 4. 脳卒中片麻痺の評価
 - ⑦意識・運動麻痺評価 ⑧筋緊張・腱反射評価 ⑨感覚・バランス評価 ⑩包括的評価
- 5. 脳卒中片麻痺に対する理学療法
 - ⑪⑫急性期の理学療法 ⑬⑭回復期の理学療法 ⑮ADL練習、装具療法

○神経難病について

1. 変性疾患の概念と分類①

- 1) パーキンソン病
 - ②③病態 ④⑤⑥理学療法評価・運動療法
- 2) 脊髄小脳変性症
 - ⑦分類と病態 ⑧理学療法評価 ⑨運動療法
- 3) 筋萎縮性側索硬化症
 - ⑩病態、理学療法評価・運動療法、補装具

2. 脱髓疾患

- 1) 多発性硬化症
 - ⑪病態 ⑫理学療法評価・運動療法
- 2) ギランバレー症候群 ⑬
 - 病態、理学療法評価、運動療法

3. その他 ⑭

末梢神経障害、神経筋接合部障害

4. まとめ ⑮

①～⑮は授業回数

【テキスト】

『病気がみえる⑦ 脳・神経』 第2版

MEDIC MEDIA

『ここがポイント！ 脳卒中の理学療法』 河村 廣幸

金原出版

『ビジュアルレクチャー 神經理学療法学』 潮見 泰藏 編著

医歯薬出版

『リハビリテーションビジュアルブック』 第2版

学研

【成績評価】※脳卒中と神経難病の合算にて最終評価とする。

脳卒中について 1. 筆記試験90% 2. 課題10%

神経難病について 1. 筆記試験70% 2. 授業態度10% 3. 課題20%

科目区分：専門	科目名：義肢装具学総論	担当：大坪 誠 他
単位：1 単位 (30時間)	開講期：2年 (後期)	履修形態：必修
【授業概要】		
リハビリテーション医学における義肢装具(療法)は、機能代償を目的で処方されることもあるが、治療の過程で用いられる頻度も高い。本講では、義肢装具の位置づけ・役割及び基本的事項を解説する。また、義肢装具士の社会的役割についても述べる。		
【達成目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装具の構成、義肢装具の基本的な用語を理解する。 ・医学的リハビリテーション医療における義肢装具の役割を理解する。 		
【履修条件・注意事項】		
<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装具処方の対象となる疾患・障害への理解が大前提です。 ・機能障害と能力低下の関連について熟知すること。 ・物理学運動学の基礎的用語(モーメント・力点・作用点)を想起しながら講義を聞くこと。 		
【授業計画】		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「義肢装具士」という専門職について 2. 装具学総論 3. 装具療法総論① 4. 装具療法総論② 5. 体幹装具① 6. 体幹装具② 7. 上肢装具① 8. 上肢装具② 9. 下肢装具① 10. 下肢装具② 11. 補装具の給付と法律 12. 採型実習：上肢又は下肢の外形の型取り 1 13. 採型実習：上肢又は下肢の外形の型取り 2 14. 採型実習：上肢又は下肢の外形の型取り 3 15. 装具学まとめ 16. 筆記試験 		
【テキスト】		
『義肢装具チェックポイント』		日本整形外科学会 医学書院
【参考図書】		
適宜紹介		
【成績評価】		
1. 授業態度 (20%) 2. 筆記試験 (80%)		

科目区分：専門	科目名：生活環境論	担当：末繁 理恵
単位：1単位（30時間）	開講期：2年（後期）	履修形態：必修
【授業の概要】		
生活環境論では、理学療法士としての知識を基盤として「生活する人間」の周辺を取り巻く生活環境に存在する多くの問題について学ぶ。その上で、理学療法士としてどのような支援が可能かを考えていく。		
【達成目標】		
①生活環境について理解できる。 ②生活環境の評価について理解できる。 ③生活環境の改善に必要な基礎的な知識（住環境、社会福祉制度、福祉用具、地域環境など）を習得することが出来る。		
【履修条件・注意事項】		
・グループ演習を実施する為、他のメンバーと協力し主体的に取り組む。 ・街めぐりでは、当学院の学生としてふさわしい言動・態度で地域環境を調査する。		
【授業内容】		
1. オリエンテーション 2. 障害者施策の発展、生活環境総論（人的・物的・社会環境）について 3. 人的環境・物理的環境評価（家族とのかかわり・間取り図作成、周辺環境調査） 4. 生活環境の評価と改善計画（物理的環境に対する改善ポイント） 5. 校内環境調査、調査結果まとめ 6. 社会的環境について 7. 社会保障制度について（医療保険、年金制度） 8. 社会保障制度について（介護保険制度と生活環境関連施策） 9. 社会保障制度について（障害者福祉の変遷、障害者総合支援法の概要） 10. 社会保障制度について（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳） 11. 生活環境の評価と改善の実際と環境調整 12. 福祉用具（自助具含む）の実際と環境調整 13. 地域環境について 14. 街めぐり 15. 街めぐりまとめ *天候による授業計画の変更あり		
【テキスト】		
『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版』 奈良 純 医学書院		
【参考図書】		
適宜紹介		
【成績評価】		
1. 筆記テスト（70%） 2. 課題（20%） 3. 授業態度（10%）		

科目区分：専門	科目名：臨床基礎実習	担当：理学療法学科教官
単位：1単位(40時間)	開講期：2年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

病院・施設で働く理学療法士の業務を直接見聞することで、理学療法士の業務の実態を学び、患者様の状態・障害を専門職として捉える視点を養い、理学療法士に必要な知識や技術の重要性を再認識することを目的とする。また、それらを自ら継続して、積極的に高めていく意識を身に付ける。

【達成目標】

- ・理学療法士として、患者様と接する上で必要な接遇やマナーを理解する。
- ・2年次前期までに修得した技術（トランスファー・検査測定など）を模倣・実施できる。

【履修条件・注意事項】

- ・臨床現場を想定して、学内でも実習を行います。言葉使いを含めた行動や服装についても医療職にふさわしいレベルを求めます。
- ・この学外実習を開始するまでに、感染症に対する抗体価検査及びワクチン接種を終了しておく必要があります。（未完了の場合、学外実習が行えません。）

【授業計画】

1. 医療現場と理学療法士の業務について（実習前）
2. 学外実習終了後、学んできたこと・これから学ぶ課題を発表・検討する。

『学外実習』

1. 実習内容：見学実習（理学療法の実際を知る）
2. 実習時期・期間：2年次後期 12月（5日間）
3. 実習施設：山口県内の総合病院を中心に実施（配置は別途調整）

【テキスト】

『図解理学療法技術ガイド 第4版』	編集主幹 石川齋 武富由雄	文光堂
『PT・OTのための臨床技能とOSCE』	監修 才藤栄一	金原出版

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

- ・授業態度（20%）
- ・課題（20%）
- ・実習成績（60%）

3 年 次

専 門 科 目

- ◇ 臨床運動学
- ◇ 理学療法セミナーⅢ
- ◇ 理学療法セミナーⅣ
- ◇ 理学療法評価学演習 I
- ◇ 理学療法評価学演習 II
- ◇ ケアマネジメント概論
- ◇ 理学療法治療学Ⅳ
- ◇ 理学療法治療学演習 I

- ◇ 理学療法治療学演習 II
- ◇ 理学療法治療学演習 III
- ◇ 義肢装具学各論
- ◇ 理学療法特論 I
- ◇ 地域理学療法学
- ◇ 地域理学療法学演習
- ◇ 地域理学療法学実習
- ◇ 臨床実習 I

科目区分：専門	科目名：臨床運動学	担当：山崎 貴博 村上 博子
単位：1単位（30時間）	開講期：3年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

健常者の動きを熟知するとともに、障害を持たれた方々の動きを考えていく。

【達成目標】

- ・運動力学について理解する。
- ・臨床場面での各種動作についての理解を深める。

【履修条件・注意事項】

【授業計画】

- | | |
|--------------------------------------------|------------|
| 1. オリエンテーション、動作観察・分析の進め方
運動学・運動力学の基礎…講義 | |
| 2. 姿勢分析（臥位、座位、立位）…講義、演習 | 小テスト・レポート |
| 3. 基本動作分析1（寝返り、起き上がり）…講義、演習 | 小テスト・レポート |
| 4. 基本動作分析2（椅子からの立ち上がり）…講義、演習 | 小テスト・レポート |
| 5. 基本動作分析3（歩行）…講義、演習 | 小テスト・レポート |
| 6. 試験 | |
| 7. 動作分析演習①：表面筋電図の基本 | |
| 8. 動作分析演習②：表面筋電図実習（共通課題） | グループワーク・発表 |
| 9. 動作分析演習③：表面筋電図実習（自由課題） | グループワーク・発表 |

【テキスト】

- | | |
|----------------------------|-------|
| 『P T・O T のための運動学テキスト』 小柳 他 | 金原出版 |
| 『基礎運動学』 中村 隆一・齊藤 宏 | 医歯薬出版 |

【参考図書】

- | | |
|-----------------------|-------|
| 『臨床運動学』 中村 隆一 他 | 医歯薬出版 |
| 『標準理学療法学 臨床動作分析』 奈良 勲 | 医学書院 |
| 『臨床動作分析マニュアル』 黒川 幸雄 他 | 文光堂 |

【成績評価】

1. 小テスト（30%）
2. レポート（10%）
3. 筆記試験（30%）
4. 発表（30%）

科目区分：専門	科目名：理学療法セミナーⅢ	担当：理学療法学科教官
単位：1 単位 (30時間)	開講期：3年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床実習に向け、これまで学んできた知識・技術の復習を行うとともに、医療職・理学療法士として必要なマナーを学ぶ。

【達成目標】

ケーススタディを通して、理学療法の評価・治療の手順を理解する。社会人・理学療法士としての接遇・マナーを普段から実践できる。

【履修条件・注意事項】

接遇・マナーは一度には身につきません。普段から「報告・連絡・相談」を心掛けること。提出物の遅れは認めません。

【授業計画】

1. 理学療法基礎知識・技術

国家試験に準じたレベルの演習問題を使用した基礎知識の確認

2. 臨床実習に向けて

ケーススタディを通して

- ・基礎知識の確認、整理と学習の進め方
- ・病態の理解
- ・理学療法の手順（検査・測定、評価、治療）の復習

【テキスト】

『理学療法評価学』

『PT・OTのための臨床技能とOSCE』

『リハビリテーションビジュアルブック』

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度 (30%) 2. 筆記試験 (30%) 3. 実技試験 (30%) 4. 課題 (10%)

科目区分：専門	科目名：理学療法セミナーIV	担当：理学療法学科教官
単位：1 単位（30時間）	開講期：3年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床実習に向け、理学療法に必要な知識・技術の総まとめを行う。

臨床実習Ⅰ終了後、基本的な知識や考え方について確認する。

【達成目標】

基本的な理学療法が理解できる。

各疾患について評価の内容と実技を習得する。

【履修条件・注意事項】

実習前と実習終了後の開講となります。

また下記1. 3) の実施結果を当該単位の認定資料とともに、一定基準に満たない場合、臨床実習Ⅰの履修が行えない場合があります。

【授業計画】

1. 臨床実習Ⅰに向けて

1) 医療職、実習生に求められるもの：接遇、マナー（外部講師）

2) 理学療法士に求められるもの：職業倫理（外部講師）

3) その他

①10月初旬に医歯薬出版の全国統一模擬試験を受験する。

②実習前に臨床現場を想定した実技試験を実施する。

2. ケーススタディ

提示症例に対する評価（検査・測定に対するアセスメント、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラムの立案）を行う。

3. 記録について

SOAPによる記載法方法を理解する。

4. 臨床実習Ⅰを終えて

経験した症例のまとめを行うとともに、理解を深める。

【テキスト】

『臨床実習の手引き 第26期生版』

山口コ・メディカル学院 理学療法学科

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度

2. 筆記試験

3. 症例試験

4. 模擬試験

科目区分：専門	科目名：理学療法評価学演習Ⅰ	担当：尾畠・吉富・前田
単位：1単位(30時間)	開講期：3年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

この授業では運動器・神経系障害（脳卒中、神経難病）についての障害像をイメージしながら評価までの一連の流れをケーススタディや実技を交えながら学習する。

【達成目標】

各疾患の病態、障害像を踏まえながら、情報収集、リスク管理、評価までを習得する。

【履修条件・注意事項】

実技については、医療従事者としてふさわしい身なり・態度で臨むこと。

【授業計画】

1. 神経難病について 5コマ
2. 脳卒中について 5コマ
3. 運動器系障害について 5コマ

※各授業の詳細については、各教科担当から説明する。

【テキスト】

『病気がみえる⑦ 脳・神経』第2版	MEDIC MEDIA
『ここがポイント！ 脳卒中の理学療法』 河村 廣幸	金原出版
『ビジュアルレクチャー 神経理学療法学』 潮見 泰藏 編著	医歯薬出版
『リハビリテーションビジュアルブック』第2版	学研
『運動器障害理学療法学テキスト』改訂第3版 細田 多穂 他	南江堂
他適宜紹介	

【成績評価】

1. 筆記試験：(90%)
 2. 授業態度、課題 (10%)
- 神経難病・脳卒中・運動器系障害を合算して評価する。

科目区分：専門	科目名：理学療法評価学演習Ⅱ	担当：吉村・村上・楫野
単位：1単位（30時間）	開講期：3年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

- ・小児分野及び内部疾患（呼吸分野）の評価から治療までを学ぶ。特に基本的な臨床像を呈するケースを対象とする。また、機能的評価に際しては、CTやMRI, DVD等を用い、症状の確認を行う。

【達成目標】

- ・各分野の基本的理学療法を理解し、症例検討・ロールプレイができるようになる。

【履修条件・注意事項】

- ・各分野で開講形態がことなるため、準備等の確認を確實に行うこと。

【授業計画】

1. 小児領域でのケーススタディ
 - 精神発達遅滞児
 - 脳性麻痺 痊直型片麻痺
 - 瘻直型両麻痺
 - アテトーゼ型、重症児
 - 二分脊椎
 - 筋ジストロフィー症 他
2. 内部障害（呼吸器障害）のケーススタディ
 - 慢性呼吸不全に対する理学療法
 - 急性呼吸不全に対する理学療法
3. トピックス

【テキスト】

- | | | |
|----------------------|---------|-------|
| 『理学療法評価学』 | 松澤 正 | 金原出版 |
| 『小児理学療法学テキスト 改定第3版』 | 田原 弘幸 他 | 南江堂 |
| 『最新理学療法講座 内部障害理学療法学』 | 高橋 哲也 他 | 医歯薬出版 |

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 筆記試験（40%）
3. 演習課題（40%）

科目区分： 専門	科目名：ケアマネジメント概論	担当： 尾畠 敏江
単 位：1 単位 (30時間)	開講期：3年 (後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

障害者や高齢者を取り巻く社会的背景を理解する。対象者に必要なケアについて考えるとともに、ニーズと医療・福祉などのサービスをつなぐことができる理学療法士を目指す。

【達成目標】

適切なケアマネジメントを行うために、他職種との共通言語である ICF（国際生活機能分類）を理解する。リハビリテーション総合計画書が作成できる。

【履修条件・注意事項】

グループワークを中心に進めています。これまでに学習した疾患についてはもちろん、地域リハビリテーション学、地域理学療法学についても理解を深めておくこと。
授業は、臨床実習Ⅰ前と終了後に分けて行います。

【授業計画】

<臨床実習Ⅰまで>

1. オリエンテーション、ケアマネジメントの基礎知識
社会保障制度
2. ICF（国際生活機能分類）・ICIDH（国際障害分類）について
3. ICFと理学療法
4. 目標設定（主目標・副目標）とプログラム
5. 諸サービスの理解
6. 模擬症例をもとに演習
7. ICFの作成
8. 発表・検討
- 9.
10. 模擬症例のまとめ

<臨床実習Ⅰ終了後>

11. リハビリテーション総合実施計画書について
12. 経験症例をもとに演習
13. ICFの作成 と 総合実施計画書の作成
14. 発表・検討
15. まとめ

【テキスト】

適宜紹介

【参考図書】

【成績評価】

1. 授業態度 (20%)
2. 課題・発表 (30%)
3. 筆記試験 (50%)

科目区分：専門	科目名：理学療法治療学IV（循環/小児）	担当：前原達也、楫野允也 吉村靜馬
単位：2単位(60時間)	開講期：3年(前期)	履修形態：必修

【授業の概要】

この理学療法治療学IVでは、循環器疾患をはじめとする内部障害と小児領域の障害の病態・障害像について理解し、理学療法プログラムを立て、実践するまでの技術習得を目指す。

【達成目標】

<内部障害>

- ・内部障害疾患の病態・障害像・治療を理解する。
- ・内部障害への理学療法評価と治療の意義を理解し、実践できる。

<小児領域>

- ・中枢神経系障害(脳性麻痺)の病態、症状を理解する。
- ・小児整形外科疾患(二分脊椎 他)の病態、症状を理解する。
- ・神経筋障害の病態、症状を理解する。
- ・重症児(重症心身障害児)の病態、症状を理解する。
- ・精神発達遅延児(ダウン症)の病態、症状を理解する。

○各疾患障害の病態に応じた運動療法プログラムを実施することができる。

【履修条件・注意事項】

- ・2年次の理学療法評価学IIIの復習をすること。
- ・神経内科学、神経系障害との関連性を念頭において授業を受けること。

【授業内容】

<内部障害>

1. 内部障害理学療法総論
2. 心臓リハビリテーション・不整脈
3. 虚血性心疾患の理学療法
4. 心不全の理学療法
5. 心疾患外科術後の理学療法
6. 大動脈疾患の理学療法
7. その他循環器疾患の理学療法
8. 実習①（課題提出：中間試験に該当）
9. 実習②（課題提出：中間試験に該当）
10. 糖尿病の理学療法
11. 腎疾患の理学療法
12. 高血圧に対する理学療法
13. 脂質異常症に対する理学療法
14. 肥満に対する理学療法
15. まとめ

<小児領域>

1. オリエンテーション 正常運動発達
2. 発達障害総論 神経系の発達と運動発達
3. 発達障害各論 運動発達の遅れと異常
4. 整形外科疾患 ペルテス病、二分脊椎
5. 整形外科疾患の理学療法
6. 進行性筋ジストロフィー症の理学療法
7. 精神運動発達遅延（ダウン症）の理学療法
8. 中間試験
9. 脳性麻痺総論
10. 脳性麻痺各論 中枢神経系障害（脳障害）
11. タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法 1
12. タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法 2
13. タイプ別脳性麻痺の特徴とその理学療法 3
14. 重症心身障害児（重症児）の病態症状について
15. 重症児、医療的ケア児の理学療法

【テキスト】

『最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 第1版』 高橋 哲也 医歯薬出版株式会社
『小児理学療法学テキスト 第3版』 田原 弘幸 南江堂

【参考図書】

『理学療法ハンドブック 第1巻 第4版』 細田多穂 協同医書出版社
『内部理学療法学 第1版』 高橋哲也 医歯薬出版株式会社

【成績評価】

1. 授業態度(20%)
2. 確認試験：内部障害と小児領域の2分野に分けて実施(80%)

科目区分：専門	科目名：理学療法治療学演習Ⅰ	担当：前田有輝、尾畠敏江
単位：2単位（60時間）	開講期：3年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床において対象となる運動器障害について、その病態と治療を理解するとともに、理学療法士が果たす役割を習得する。特にこの講座では、スポーツ障害・関節リウマチ、脊髄損傷について学ぶ。

【達成目標】

- ・スポーツ障害分野での理学療法士の役割を理解し、その基礎を身に付ける。
- ・外傷の病態と理学療法を習得する。
- ・脊髄損傷の特徴を理解し、損傷レベル別の目標・動作が理解できる。

【履修条件・注意事項】

- ・2つの分野に分かれ進行する。
- ・脊髄の解剖、筋肉の髓節レベルは麻痺・動作を理解するのに重要となる。授業毎に小テストを行う。

【授業計画】

〈スポーツ障害 前田担当〉 〈脊髄損傷 尾畠担当〉

授業回	項目	主な学習内容	授業回	主な学習内容
1	運動器の基礎理論	運動科学に基づく運動・動作の原則	1	現状・脊髄の解剖
2			2	神経症状、レベル診断、損傷タイプ
3	脊椎疾患	圧迫骨折・腰椎椎間板ヘルニア 脊柱管狭窄症	3	随伴症状、合併症
4			4	
5			5	
6	創傷	熱傷・褥瘡	6	理学療法評価
7	リウマチ性疾患	関節リウマチ（RA）	7	頸髄損傷の運動療法と動作 (実技含む)
8	関節軟部組織性障害①	ACL（前十字靱帯）損傷	8	
9			9	
10	関節軟部組織性損傷②	半月板損傷	10	胸・腰髄損傷の運動療法と動作 (実技含む)
11			11	
12	関節軟部組織性損傷③	足関節外側副靱帯損傷	12	装具・車いす（選択・操作方法） ADL
13			13	
14			14	
15	まとめ		15	まとめ

【テキスト】

『運動器障害理学療法学テキスト』

細田多穂 他

南江堂

『標準整形外科学』

第14版

医学書院

『脊髄損傷リハビリテーションマニュアル』 神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷委員会・編

医学書院

『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』

監修 奈良 熊

医学書院

適宜紹介・購入

【参考図書】

『病気が見える 脳・神経』

メディックメディア

適宜紹介

【成績評価】

スポーツ障害と脊髄損傷の分野を合算し成績とする。

科目区分：専門	科目名：理学療法学治療学演習Ⅱ	担当：溝口 桂・川端 悠士 村上 博子・楫野 充也
単位：2単位(60時間)	開講期：3年(前・後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

各分野の臨床に必要な知識・技術の習得と復習を行う。

【達成目標】

- 各分野の基本的理学療法を理解し、症例検討ができるようになる。
- 理学療法の効果を客観的に捉えるための視点を習得する。

【履修条件・注意事項】

- 各分野で開講形態がことなるため、準備等の確認を確実に行うこと。

【授業計画】

- 切断の理学療法…担当：溝口 桂 2コマ×2回、川端 悠士 2コマ×1回
- 呼吸器疾患の理学療法…担当：村上 博子 8コマ
- がんのリハビリテーション…担当：楫野 充也 8コマ
- 理学療法研究の基礎…担当：川端 悠士 3コマ×2回
- トピックス 2コマ

【テキスト】

『最新理学療法講座 内部障害理学療法学』 高橋 哲也 他 医歯薬出版
適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

- 授業態度(20%)
- 筆記試験(40%)
- 演習課題(40%)

科目区分：専門	科目名：理学療法学治療学演習Ⅲ	担当：特別講師
単位：2単位（60時間）	開講期：3年（後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床実習Ⅰ終了後（1・2月）に各分野の症例検討をしながら評価の復習と総合実習に向けての治療プログラム立案を行う。

【達成目標】

- 各疾患の評価（統合・解釈を含む）ができるようになる。
- 理学療法プログラムの立案及び実践ができるようになる。

【履修条件・注意事項】

- 各回の授業で提示される課題を必ず完了すること。
- 授業は、実技も含るので必ず実習着着用で出席すること。

【授業計画】

- 整形外科疾患のケーススタディ
- 脳血管障害のケーススタディ
- 神経難病のケーススタディ
- 内部障害のケーススタディ
- トピックス

【テキスト】

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

- 授業態度（20%）
- 演習課題（80%）

科目区分：専門	科目名：義肢装具学各論	担当： 大坪 誠 他
単 位：1 単位（30時間）	開講期：3年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

リハビリテーション医学における義肢装具（療法）は、機能代償を目的で処方されることもあるが、治療の過程で用いられる頻度も高い。本講では、臨床に即した内容で講義する。

【達成目標】

- ・疾患装具の種類と疾患・障害を結びつけられるようにする。
- ・義肢装具の分類（種類）と評価方法を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・整形外科疾患、中枢神経系疾患の病態障害を理解して授業に臨むこと。
- ・実習では、フットワークよく動くこと。

【授業計画】

1. 上肢装具①
2. 上肢装具②
3. スプリント作製実習①
4. スプリント作製実習②
5. 義手①
6. 義手②
7. 筋電義手③
8. 大腿義足①（大腿切断と断端管理）
9. 大腿義足②（ソケットデザインとアライメント解説）
10. 大腿義足③（異常歩行とその調整）
11. 下腿義足①（下腿切断原因と断端管理）
12. 下腿義足②（ソケットデザインとアライメント解説）
13. 下腿義足③（異常歩行とその調整）
14. トピックス①
15. トピックス②

【テキスト】

『義肢装具のチェックポイント』

日本整形外科学会

医学書院

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 筆記試験（80%）

科目区分：専門	科目名：理学療法特論 I	担当：立花・山崎 溝口・前原 他
単位：2単位(30時間)	開講期：3年(後期)	必修

【授業の概要】

臨床現場で担当する疾患や障害の理学療法についての知識・技術を深めとともに、5月から展開される臨床実習Ⅱにおける理学療法の実際(評価・治療)の一助とする。

【達成目標】

- ・臨床現場で遭遇する肩関節障害や脳血管障害の評価治療の流れを、講師の豊富な臨床経験を聞く中から、自らのものにする。
- ・1年後の入職時、一人前の理学療法士として基本的な理学療法が実施できる技術を身につける

【履修条件・注意事項】

- ・3年次の臨床実習Ⅰを終了していること。
- ・フットワークの良い理学療法士として、自覚を持って望むこと。

※ 臨床実習Ⅰ(25時間)の実習で体験したことが、次の実習に役立つよう自己努力を惜しまぬように講義・実技に取り組むこと。

【授業計画】

特別講義(集中講義)として開講する

1. 中枢神経疾患の動作分析
2. 心臓リハビリテーションの実際
3. 手の外科
4. 肩関節障害と理学療法
5. トピックス

【テキスト】

適宜紹介

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度
2. 演習課題
3. その他

科目区分：専門	科目名：地域理学療法学	担当：村上 他
単位：1 単位（30時間）	開講期：3年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

2年次に履修した地域リハビリテーション学をふまえて、地域における理学療法に必要な知識・技術を身につける。また、治療技術の修得だけにとらわれず、生活全般における障害を理解し、理学療法士としての視点を得ることを目指す。

また、高齢者、障害者を取り巻く環境を知ることで、現在、何を理学療法士に求められているかを再認識する。

これまでに学んだ様々な知識と技術を統合し、地域において理学療法士に何ができるかを考える。

【達成目標】

- ・生活障害・生活環境を理解する。
- ・地域リハビリテーション・地域包括ケアの中で、理学療法士の役割を理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・特別講義、学外実習等様々な開講形態になるので、その都度、予定を確認すること。
- ・学外実習については、頭髪、服装などの身なりについては正すこと。

【授業計画】

1. 維持期・生活期のリハビリテーション：講義・演習（2コマ） 担当：村上
2. 在宅支援における医療処置他（2コマ） 担当：村上
3. 地域包括ケアについて：特別講義（2コマ）
4. 訪問リハビリテーションと理学療法：特別講義（2コマ）
5. 介護老人保健施設における理学療法士の役割…特別講義（2コマ）
6. 通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割…特別講義（2コマ）
7. 施設ケアについて（2コマ） 担当：村上
8. まとめ

【テキスト】

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 演習課題（20%）
3. グループ課題（20%）
3. 特別講義課題（40%）

科目区分：専門	科目名：地域理学療法学演習	担当：村上 他
単位：1 単位（30時間）	開講期：3年（前・後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

これまでに学んだ様々な知識と技術を統合し、地域において理学療法士に何ができるかを考える。

【達成目標】

- ・地域リハビリテーション・総合支援事業等の仕組みを理解する。
- ・運動器向上プログラムの基本を学ぶ。
- ・在宅支援について理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・特別講義、学外実習等様々な開講形態になるので、その都度、予定を確認すること。
- ・学外実習については、頭髪、服装などの身なりについては正すこと。

【授業計画】

1. 総合支援事業について：講義・演習（4コマ）・・・特別講義
2. 介護予防のための基礎技術：マシントレーニング（2コマ）・・・学外実習NAP
エアロビクス（1コマ）・・・学外実習NAP
3. 入浴動作を考える：浴槽への出入りの動作分析及び浴槽作成（6コマ）
4. 住宅改修関連機器について（2コマ）・・・特別講義
5. まとめ

【テキスト】

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 演習課題（40%）
3. グループ課題（40%）

科目区分：専門	科目名：地域理学療法学実習	担当：吉村・村上 他
単位：1 単位 (45時間)	開講期：3年 (前・後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

これまでに学んだ様々な知識と技術を統合し、地域において理学療法士に何ができるかを考える。

【達成目標】

- ・運動器向上プログラムの立案と実施ができるようになる。
- ・施設ケア、就労について理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・特別講義、学外実習等様々な開講形態になるので、その都度、予定を確認すること。
- ・学外実習については、頭髪、服装などの身なりについては正すこと。

【授業計画】

1. 介護予防プログラムの作成 (4コマ) ・・・ 講義・実習 担当：村上
2. 介護予防プログラムの実施 (4コマ) ・・・ 学外実習 担当：村上
3. 障害者支援施設見学 (4コマ) ・・・ 学外実習 担当：吉村・村上
4. まとめ (3コマ)

【テキスト】

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度 (20%)
2. 演習課題 (40%)
3. グループ課題 (40%)

科目区分：専門	科目名：臨床実習Ⅰ	担当：理学療法学科教官
単位：5単位(200時間)	開講期：3年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

医療機関において、理学療法士による直接指導の下、理学療法業務を学ぶ。

【達成目標】

様々な情報を統合解釈し、問題点の抽出、ゴール設定、理学療法プログラムの立案までの「理学療法の流れ」を学ぶ。

【履修条件・注意事項】

社会人としてマナーを厳守すること。

実習終了後、実習経験報告会、到達度確認試験を行う。

【授業計画】

実習期間

2023年(令和5年) 10月30日～12月8日までの25日間

実習場所

県内・県外の医療機関(1施設)で実施

【テキスト】

『臨床実習の手引き 第26期生版』

山口コ・メディカル学院 理学療法学科

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

実習の前後で数種類の試験等を実施し、到達度の確認を行う。

実習状況・態度・取り組み方等も含め、総合的に判定する。

4 年 次

専 門 科 目

- | | |
|--------------|-------------|
| ◇ 理学療法研究法 | ◇ 地域理学療法学実習 |
| ◇ 理学療法セミナーV | ◇ 臨床実習II |
| ◇ 理学療法セミナーVI | ◇ 臨床実習III |
| ◇ 理学療法管理学 | ◇ 臨床実習IV |
| ◇ 理学療法特論II | |

理学療法学科

科目区分：専門	科目名：理学療法研究法	担当：川端 悠士 他
単位：1単位(30時間)	開講期：4年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床現場で活用できる研究手法について講義と演習を交えながら学ぶ。また、学会等の発表を通して、日常業務を客観的に捉えることの重要性を学ぶ。
講座の後半では、実際に学会に参加し研究発表の実際を知る。

【達成目標】

- ・臨床研究の知識と方法を理解する。
- ・E B Tについて内容を理解する。
- ・統計的な解析の基本ができるようになる。

【履修条件・注意事項】

【授業計画】

1. 基礎研究の基礎と実践（演習）
2. 統計学　まとめ
3. 学会参加
4. トピックス　他

【テキスト】

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度(20%)
2. 筆記試験(40%)
3. 演習課題(40%)

科目区分：専門	科目名：理学療法セミナーV	担当：理学療法学科教官
単位：1単位（30時間）	開講期：4年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床実習Ⅰを終え、学内教育の必要性と応用の難しさを実感している状況において、理学療法の基礎の復習と再獲得を目指す。

【達成目標】

- ・臨床実習Ⅰでの自己学習と体験・経験に基づき、障害像と理学療法の関係性について復習する。
- ・臨床実習Ⅰで経験した理学療法技術を復習するとともに、臨床への応用方法を学習する。
- ・様々なケーススタディを通して、理学療法の思考過程を学習する。

【履修条件・注意事項】

- ・理学療法士を目指す学生として自覚を持ち、「講義を受ける」のではなく、「自ら学びとる」姿勢で、積極的に自己学習に努めること。

【授業計画】

1. 経験した症例のまとめ
2. 理学療法の基本技術の復習と臨床応用について
 - 1) 検査・測定
 - 2) 治療技術・動作介助技術
3. 理学療法ケーススタディ
 - 1) 脳血管疾患
 - 2) 整形外科疾患
 - 3) 神経筋疾患
 - 4) 内部疾患
4. 理学療法基礎知識のまとめ
 - 1) 解剖学・生理学・運動学の復習
 - 2) 各種疾患の復習
 - 3) 自己学習の内容の復習

【テキスト】

『臨床実習の手引き－25期生用－』

山口コ・メディカル学院 理学療法学科

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度
 2. 症例レポート課題
 3. 筆記試験（基礎知識）
- 出席状況・学習状況に問題がある場合、単位取得ができない場合がある。

科目区分：専門	科目名：理学療法セミナーVI	担当：理学療法学科教官
単位：2単位(90時間)	開講期：4年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

理学療法士に必要な知識・技術の総まとめを行うとともに、理学療法士としての考え方や取り組む姿勢の向上を目指す。

【達成目標】

- ・理学療法士に求められる社会的スキル・認知スキル・精神運動スキルの向上。
- ・国家資格修得に求められる知識の定着を図る。

【履修条件・注意事項】

- ・国家試験受験対策ではグループ学習が中心となるため、協調性を持って取り組むこと。

【授業計画】

1. 症例まとめ
経験した症例のまとめを通して、理学療法の理解を深める。
2. 国家試験に向けて
1) 受験対策（グループ学習等の実施） 2) 集中セミナー 3) 模擬試験実施
3. 理学療法士資質向上に向けて
1) 特別講義
①これからの理学療法士に求められるもの
②卒後教育・生涯学習について
③トピックス
4. その他
状況に応じて、適宜、特別講義やセミナーを開講予定。
計画的に行われる模試結果を単位認定の判定資料とする。

【テキスト】

- 『理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学』 医歯薬出版
 『理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学』 医歯薬出版
 『理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 理学療法専門分野 基礎編』 医歯薬出版
 『理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 理学療法専門分野 疾患別編』 医歯薬出版

【参考図書】

- 『クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士 共通問題』 メディックメディア
 『クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士 専門問題』 メディックメディア

【成績評価】

1. 授業態度
2. 課題
3. 症例試験
4. 模擬試験

科目区分：専門	科目名：理学療法管理学	担当：石松元太郎、高橋博愛 通山賢一、村上、吉村
単位：2 単位 (30時間)	開講期：4年後期	履修形態：必修
【授業の概要】		
理学療法は、リハビリテーション医療の中核的立場を担う部門として、重要なポジションを占める。その活動範囲は、保健福祉領域まで拡大している。それに伴って、関係職種との協働作業も多岐にわたり、益々、理学療法士としての適性を問われる時代に突入したとも言える。		
「医療は、サービス業である」という原点に立ち返り、理学療法部門における有形無形のサービスについて考え、医療人・社会人としての心構えを養う。		
【達成目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士を取り巻く関係法規について理解する。 ・理学療法士としての管理運営関連事項について理解する。 ・入職後の専門職としての意識を高める。 		
【離床条件・注意事項】		
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士国家試験対策の1講座としての位置づけである。 ・臨床家としての心構えについて再確認する授業として臨むこと。 		
【授業計画】		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業倫理 医療提供者に求められる倫理の理解、医療倫理と患者の権利 2. 管理運営 組織論、管理・管理的活動の理解、情報管理 3. 人間関係 組織における人間関係の理解 4. 医療経済学 診療報酬と理学療法 5. 医療安全対策と理学療法 医療水準の確保とリスクマネジメント 6. 理学療法士の組織と活動 日本理学療法士協会・各都道府県理学療法士会 7. 生涯教育 生涯学習の必要性 日本理学療法士協会の新人教育プログラム 8. 理学療法の教育方法論 教授活動と行動目標、臨床実習教育 9. 関連法規 理学療法士法作業療法士法、医療法、介護保険法、障害者自立支援法 10. トピックス 11. その他 		
【テキスト】		
『理学療法概論 第7版』		奈良 勲 医学書院
【参考図書】		
『新人教育プログラム 第6版』		社団法人日本理学療法士協会編
【成績評価】		
1. 授業態度/参加度 (30%) 2. 確認試験 (60%) 3. その他 (10%)		

科目区分：専門	科目名：理学療法特論Ⅱ	担当：横山・溝口・前原他
単位：1単位(30時間)	開講期：4年(後期)	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床現場で担当する疾患や障害の理学療法についての知識・技術を深めるとともに、理学療法士の支援を必要とされているパラスポーツ分野を理解し、実践力を学ぶ。

【達成目標】

- ・臨床現場で遭遇するスポーツ障害や内部障害について、評価から治療の流れを、講師の豊富な臨床経験を聞く中から、自らのものとする。
- ・1年後の入職時、一人前の理学療法士として基本的な理学療法が実施できる技術を身につける。

【履修条件・注意事項】

- ・フットワークの良い理学療法士として、自覚をもって臨むこと。

【授業計画】

特別講義（集中講義）として開講する。

1. スポーツ障害の理学療法
2. 心臓リハビリテーションの実際（ケーススタディ）
3. 代謝障害の理学療法（ケーススタディ）
4. パラスポーツ（障がい者スポーツ）講義・実技
 - 「障害のある人々のスポーツについて～車いすを使用する種目を中心に～」
講義：スポーツの役割、工夫等
実技：車いすバスケット、陸上競技（走・投 視覚障害含む）、ボッチャ他
2.5コマ
 - 「スポーツレクレーションプログラムの作成と実施」
講義
実技：レクレーションプログラムの実践
球技を中心としたパラスポーツの体験
2.5コマ
5. トピックス

講師 ①②とも山口県内の公認パラスポーツコーチ、
公認上級パラスポーツ指導員、選手

【テキスト】

適宜紹介

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度
2. 演習課題
3. その他

科目区分：専門	科目名：地域理学療法学実習	担当：吉村・村上 他
単位：1 単位（45時間）	開講期：4年（前・後期）	履修形態：必修

【授業の概要】

これまでに学んだ様々な知識と技術を統合し、地域において理学療法士に何ができるかを考える。

【達成目標】

- ・運動器向上プログラムの立案と実施ができるようになる。
- ・施設ケア、就労について理解する。

【履修条件・注意事項】

- ・特別講義、学外実習等様々な開講形態になるので、その都度、予定を確認すること。
- ・学外実習については、頭髪、服装などの身なりについては正すこと。

【授業計画】

1. 介護予防プログラムの作成（4コマ）・・・講義・実習 担当：村上
2. 介護予防プログラムの実施（4コマ）・・・学外実習 担当：村上
3. 障害者支援施設見学（4コマ）・・・学外実習 担当：吉村・村上
4. まとめ（3コマ）

【テキスト】

適宜紹介・購入

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

1. 授業態度（20%）
2. 演習課題（40%）
3. グループ課題（40%）

科目区分：専門	科目名：臨床実習Ⅱ	担当：理学療法学科教官
単位：7単位（280時間）	開講期：4年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床現場である病院・施設において、理学療法士による直接指導の下、対象者の状態把握・理学療法を学ぶ。様々な情報を統合解釈し、問題点の抽出、ゴール設定、理学療法プログラムの立案・実施のそれぞれの過程を経験・会得する。

知識・技術・態度・マナーの会得を目指し、専門職としての自覚を高める。

【達成目標】

実習指導者の助言・指導の下、①対象者の情報収集、検査測定が行える、②総合的な評価を通じて、基礎知識を統合できる、③理学療法の計画を立てる、④基本的な理学療法を実施する、⑤対象者について、基礎知識を統合できる、⑥対象者の記録と報告ができる、⑦医療機関の組織、リハビリテーション部および理学療法部門の運営管理の基本事項を学ぶ。

【履修条件・注意事項】

臨床実習Ⅱ終了後、単位認定の確認試験を実施する。

【授業計画】

実習期間

2023年5月8日（月）～ 6月24日（土） 35日間

実習終了後、学内において理解度・到達度等を確認・判定のため、実技・口頭試問を実施。また、経験報告会の状況を含めて単位認定を行う。

【テキスト】

『臨床実習の手引き－25期生用－』

山口コ・メディカル学院 理学療法学科

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

実習の前後で数種類の試験等を実施し、到達度の確認を行う。

実習の状況・態度・取り組み方等も含め、総合的に判定する。

科目区分：専門	科目名：臨床実習Ⅲ	担当：理学療法学科教官
単位：7単位（280時間）	開講期：4年（前期）	履修形態：必修

【授業の概要】

臨床現場である病院・施設において、理学療法士による直接指導の下、対象者の状態把握・理学療法を学ぶ。様々な情報を統合解釈し、問題点の抽出、ゴール設定、理学療法プログラムの立案・実施のそれぞれの過程を経験・会得する。

知識・技術・態度・マナーの会得を目指し、専門職としての自覚を高める。

【達成目標】

実習指導者の助言・指導の下、①対象者の情報収集、検査測定が行える、②総合的な評価を通じて、基礎知識を統合できる、③理学療法の計画を立てる、④基本的な理学療法を実施する、⑤対象者について、基礎知識を統合できる、⑥対象者の記録と報告ができる、⑦医療機関の組織、リハビリテーション部および理学療法部門の運営管理の基本事項を学ぶ。

【履修条件・注意事項】

臨床実習Ⅱ終了後、単位認定の確認試験を実施する。

【授業計画】

実習期間

2023年7月18日（火）～ 9月8日（金） 35日間

実習終了後、学内において理解度・到達度等を確認・判定のための、実技・口頭試問を実施。また、経験報告会の状況を含めて単位認定を行う。

【テキスト】

『臨床実習の手引き－25期生用－』 山口コ・メディカル学院 理学療法学科

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

実習の前後で数種類の試験等を実施し、到達度の確認を行う。
実習の状況・態度・取り組み方等も含め、総合的に判定する。

科目区分：専門	科目名：臨床実習Ⅳ (地域実習)	担当：理学療法学科教官
単位：1 単位(40時間)	開講期：4年（前期）	必修

【授業の概要】

4年次実施の臨床実習ⅡまたはⅢ終了後に医療・保健機関の訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション部門において、地域ケア、地域リハにおける理学療法士の責任と役割について学ぶ。

【達成目標】

- ・保健・医療・福祉の違いを知る。
- ・治療としての理学療法と生活支援のための理学療法の違いを理解する。
- ・対象者を一個人として捉え、個々の抱える問題を知り、理学療法プログラムを立案できるようになる。（生活の視点を養う）

【履修条件・注意事項】

- ・対象者の生活の場に伺うこともあり、言葉遣いやマナーについては、より丁寧に注意すること。
- ・実施期間は、個々で異なるためスケジュール管理を確実に行うこと。

【授業計画】

実施期間　臨床実習Ⅲの施設の関連施設の場合は、そのまま連続して実施。
改めて、別施設で実施する場合は、2週間の期間を空けて実施。

予定　2023年9月第2週から4週の間の5日間（40時間）

※7月初旬　実習オリエンテーションとして特別講義開講予定

【テキスト】

適宜紹介

【参考図書】

適宜紹介

【成績評価】

実習終了後に実技・筆記の試験を実施し、総合判定を行う。
実習中の状況・態度、取り組み方等も含める。